

2020 年度入学生用

社会学部履修要綱（抜粋）

※履修要綱は、4/8 に学生証と共に送付しております。

到着まで時間がかかる場合がございますので、履修登録や時間割の決定に必要な部分のみを抜粋して WEB 公開しています。

社会学部生は自分が入学時にもらった冊子を卒業まで使用しますので、郵送で届いたものを大切にお使いください。

なお、本冊子は2020 年度入学生のみが対象の冊子です。

入学年度によってカリキュラムが異なる場合がありますので、

2020 年度に入学した学生以外は、参照することのないようご注意ください。

第 I 部

履修登録の前に

ここでは、社会学部のカリキュラムと進級・卒業についての基本的な仕組みについて説明する。

1	教育理念・カリキュラムについて.....	8
2	進級・卒業について	12
3	SSI (Sports Science Institute) について	19

1 教育理念・カリキュラムについて

社会学部の教育理念とディプロマ・ポリシー

「自由と進歩」という法政大学の建学の精神を基礎にして、本学部は1952年にわが国の私立大学初の社会学部として創立された。創立以来、社会学部はそれぞれの時代状況と向き合いながら、多様な社会現象が生じる構造を解き明かし、社会的課題の解決を探究することによって、より良い社会づくりをめざしてきた。

私たちが日常生活で感じる問題の原因が何なのかを知るためには、私たちの日常生活が展開される社会の「なに」とその問題が関わっているのかを知らなければならない。そのためには、社会で起こる様々なことから（社会現象）について、それらがなぜ・どのように生じるのかを理解しなければならない。そしてそもそも、何かを「知ろう」とする前提として、自分は「何を知りたいのか」を明確に把握しなければならない。

社会学部は上に述べたような能力、すなわち、現代社会の構造と動態、社会に生きる人々の営みの様態を総合的に解明・把握し、社会的課題の解決を探究する能力を身につけた人材を育成することを目指している。この履修要綱で説明する4年間の学修を通して、社会学部を卒業する学生には、ローカルからグローバルにわたる多様な社会現象と社会問題に対する鋭い感性と、それらを観察・分析・理解・伝達する力を身につけるだけでなく、より良い社会のイメージとそれを実現する方法を提言できる力を身につけてほしい。

ディプロマ・ポリシー

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

これに加えて、各学科が「学士（社会学）」授与のために修得を要求する能力の内容については、学科別のページを参照してほしい。

社会学部のカリキュラムのねらい

1. 4年間の一貫教育

本学部は、4年間の一貫教育システムを採用しており、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。

第一期は、1年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。

第二期は、2年次・3年次の2年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。

第三期は、4年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で4年間学んだことの集大成を行う。

2. 幅広い視野の形成と専門知識の集積的な学修

(1) 学部カリキュラムの構造

社会学部のカリキュラムは、総合科目・入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目・演習・外国語教育プログラム科目という7つの科目群により構成されている。7つの科目群は、「学部共通カリキュラム」と「学科カリキュラム」という2つの柱と、1年次（導入教育期）と2・3・4年次（専門教育期）という2段階の履修区分により大別される。

「学部共通カリキュラム」の科目群は、社会学部生が共通して身につけるべき知識や知的技能の修得に関わる科目で構成されている。ここには、視野形成科目や外国語教育プログラム科目、そして基礎演習と専門演習（演習1・2・3）が含まれる。

「学科カリキュラム」の科目群は、各学科の特色に対応した専門知識を集積的に学修するための科目で構成されている。学科カリキュラムはさらに、その学科で共通して身につけるべき専門知識の修得に関わる科目群（学科共通基礎・展開科目）と、学生が自らの関心に沿って選択した分野で知識を深めるための科目群（コース専門科目）に分かれている。

履修計画を立てる前に、このようなカリキュラムの構造を理解しておこう。

		1年次（導入教育期）	2・3・4年次（専門教育期）
学科カリキュラム	学科共通	入門科目 1年次履修可能な学科共通基礎科目	学科共通基礎科目 学科共通展開科目
	コース別	1年次履修可能なコース専門科目	コース専門科目
学部共通カリキュラム		総合科目 { 基礎演習 視野形成科目 情報教育基礎 保健体育科目 外国語	演習1～3 外国語教育プログラム科目

(2) 学科カリキュラムによる専門知識の修得

社会学部における社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように組まれている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対応している。

「入門科目」は、その学科が提供する専門教育への導入科目であり、1年次に履修することが望ましい。「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」によって理論的・方法的な基礎を身につける。ここで身につけた基礎の上に、「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。

「学科共通基礎・展開科目」の履修により、領域を分析・考察するための理論と方法を身につけつつ、各自の関心に応じてコースを選択する。「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。

所属学科カリキュラムの履修を進める際には、所属学科の卒業要件に注意するとともに、上のような「科目群のねらい」を念頭に置いてほしい。詳細な説明は所属学科カリキュラムのページを参照すること。

(3) 実習による技法の修得

学部共通カリキュラムの情報教育基礎では、情報技術を利用するために必要な基礎知識と技法を実習により学ぶことができる。また、各学科カリキュラムでは、専門知識を実践的に学び技法を修得する機会を提供するために、各学科の特徴に応じた実習科目が用意されている。これら実習科目

の履修により、専門的な知識を学ぶだけでなく、その知識を生み出す土台となった技法を修得し、実践するための基礎を学ぶことができるので、積極的な履修を推奨する。詳しくは、各学科カリキュラムのページを参照すること。

(4) 「コース」の選択による関心の追究

2 年次以降の履修は、各学科で提供される専門科目、特に「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」を中心に進めることになる。上で述べた通り、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」は、その学科での学修を進めるために共通して必要な学問的基盤の修得を目的に設けられている。学生は、学問的基盤を作りながら、学科で提供される「コース」の中からひとつを選択して履修を進めることで自らの関心を掘り下げていく。コース選択は、1 年次秋学期に社会学部へ提出する「コース選択希望登録票」に基づき行われる。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、各学科でコース選択のためのガイダンスが実施される。掲示などに十分注意すること。

なお、コースに設置された実習科目（「実践科目」）の履修機会を保证するため、メディア社会学科カリキュラムのコースには収容上限（各コースメディア社会学科 1 年次在籍者の 40%）が設けられている。メディア社会学科では、選択希望者が収容上限を超えたコースについて 1 年次 GPA による選抜を実施するので、所属学生は注意すること。

コースの選択は、自分の学科での「学び」をどのようなものとするかに関わる。安易にコースを変更すると計画的な履修の障害となり卒業が難しくなるので、コースは慎重に選択しなければならない。それでもやむを得ず、選択したコースの変更を希望する場合は、社会政策科学科と社会学科については、1 年次～3 年次の 3 月初旬にコース変更手続き期間が設けられている。メディア社会学科については、コース収容上限の設置にともなう選抜があるため、原則としてコース変更を認めていない。

(5) 外国語の高度な履修機会の提供（基礎から中級・上級へ）

国際化の進展に対応するため、「学びたい人が自由に学ぶことができる」L 字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目（Basic English 1・2、諸外国語初級 A・B、日本語 1・2・3）で「基本的なところをしっかりと」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。社会学部で学べる外国語は、英語・日本語（留学生対象）のほか、以下の諸外国語である。

I 群言語：ドイツ語、フランス語、中国語

II 群言語：ロシア語、スペイン語、朝鮮語

英語と I 群言語については各言語のプログラムが、II 群言語についても諸外国語選択科目が外国語教育プログラムの中に用意されている。必修外国語科目、外国語教育プログラム科目については、それぞれ該当ページを参照すること。

なお、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。詳細は該当ページを参照すること。

3. 全学年での演習の開講

本学部では、少人数の学生と教員が親しく交流しながら学問を深める演習（ゼミナール）を重視し、入学時から卒業時までの全期間にわたり少人数での学習機会を保证している。

演習の履修は全て選択制であるが、カリキュラムの中心的な柱となるものであり、積極的な参加が期待される。なお、専門演習（演習 1・2・3）は年間授業科目として履修する。

- (1) 基礎演習 I・II （1 年次～2 年次）大学生としての幅広い視野の形成、学習・研究方法の修得、問題意識の涵養を目的としている。学生と教員が親しく話し合いながら学習できる最初の機会は、この基礎演習にあり、専門演習で学ぶための準備段階にあたる。なお、基礎

演習はあらかじめ履修クラスが指定されている。

- (2) 演習 1・2 (2 年次・3 年次) 特定の学問分野や問題領域を専門的に深く研究するものであり、各教員の専門分野に即して多様なテーマのもとに開講されている。
- (3) 演習 3 (4 年次) 卒業論文を準備し、作成する演習であり、教員が学生一人ひとりを指導する。

2 進級・卒業について

教育課程について

社会学部の授業科目は、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」から構成され、これを4年に配当して授業を実施している。また、教育職員免許状・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員などの資格取得志望者ならびに社会教育主事志望者のためには、教職・資格に関する科目が設置されている。

1年間の授業は約28週で、春・秋学期の2学期に分けられている。学士の学位を得るためには、4年以上（最高8年）在学し、所定の授業科目および単位（次項参照）の修得が必要となる。学士の学位取得に必要な単位数および内容に関する規程は、極めて厳格なものであり、1単位の不足であっても学士の学位は与えられないので、各自、科目の履修にあたっては、この履修要綱を熟読し、誤りがないように十分注意すること。

ただし、よりよいカリキュラムを実現させるため、要綱の内容・規程を変更する場合がある。その場合は掲示などで周知するので十分注意すること。

単位制度について

本学における教育課程は、すべて単位制度が採用されている。卒業するためには、卒業に必要な科目を履修し、その単位を修得しなければならない。各授業科目に関する単位数は次の基準による。

◆法政大学学則第23条

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

単位の修得について

単位は、履修登録した科目について、所定（春学期、秋学期または年間）の授業を受け終えた上で、平素の学習状況、出席状況および筆記試験またはレポート・論文試験などによる成績評価の結果、合格した場合に与えられる。

修業年限および在学年限について

本学の修業年限は4年である。また、休学期間を除き、本学に8年を超えて在学することはできない。なお、春学期に在学し、秋学期に休学・退学および除籍になった場合、また春学期に休学し、秋学期に在学した場合の在学期間は0.5年とする。

また、2年次へ転籍・編入学または継続学士入学した者の在学できる期間は6年、3年次へ継続学士入学した者の在学できる期間は4年とする。転部および転科した者の在学できる期間は、前籍の学部または学科での在学年数とあわせて8年とする。

進級に関する規程

進級時期は学年度始め（4月）に限られている。進級するためには、各年次で通算して 1 年以上在学し、下記に述べる所定の単位数を充たさなければならない。

「学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は、別に定める規程により進級することができない」（学則第 19 条）。

なお、下記に述べる単位に教職・資格に関する科目は含まれない。

【1 年次から 2 年次への進級要件】

1 年次で通算して 1 年以上在籍し、1 年次終了までに、**24 単位以上**を修得しなければならない。

【2 年次から 3 年次への進級要件】

2 年次で通算して 1 年以上在籍し、所属する学科の入門科目（4 科目 8 単位）から **6 単位以上**を修得しなければならない。

※2 年次終了までに 36 単位以上を修得していない場合、3 年次に履修登録上限があるため 3 年次から 4 年次への進級ができなくなるので十分注意すること。

【3 年次から 4 年次への進級要件】

3 年次で通算して 1 年以上在籍し、以下に示す要件をすべて充たさなければならない。

（1）3 年次終了までに、**76 単位以上**を修得しなければならない。

（2）留学生以外：「Basic English 1- I・II」「Basic English 2- I・II」および「必修外国語として登録した諸外国語初級 A・B」について、各々 4 単位、**合計 8 単位**を修得しなければならない。

留学生対象：「日本語 1- I・II」「日本語 2- I・II」「日本語 3- I・II」の合計 6 単位と「Basic English 1- I・II」「Basic English 2- I・II」「母語を除く諸外国語初級 A・B」から 2 単位、**合計 8 単位**を修得しなければならない。

（3）「スポーツ総合 1- I・II」(**合計 2 単位**)を修得しなければならない。

【進級・卒業発表】

進級・卒業発表は 2 月下旬から 3 月上旬に行う。トラブル防止のため電話による問い合わせには一切応じられないので、必ず本人が進級・卒業の可否を確認すること。

進級・卒業判定の結果は以下のように表記する。

「卒業」：卒業となったもの。

「卒業留年」：卒業要件を充たさないため卒業保留となったもの。

「進級」：1 年次から 2 年次、2 年次から 3 年次、3 年次から 4 年次へと進級になったもの。

「留級」：単位不足のため現学年に留級となったもの。

卒業要件

社会学部を卒業し、学士（社会学）の学位を得るための卒業所要単位数（卒業に必要な単位数）は124単位であり、かつ在学年限内に次頁の「社会学部学科別卒業要件」の科目群・区分の条件をすべて満たさなければならない。

「学科専門科目」の区分について満たすべき条件は、学科により異なる。所属学科の卒業要件を在学年限内に満たせるよう、十分に注意して履修を進めること。

なお、所属学科カリキュラムにない、他学科カリキュラム科目（入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目）は、「学科専門科目」ではなく「自由選択科目」の単位となるので注意すること。

また、「社会学部学科別卒業要件」に記載された単位には教職・資格に関する科目の単位は含まれない。

社会学部 学科別卒業要件

区分・科目群		卒業所要単位							
		社会政策科学科	社会科学 〔人間・社会〕 〔地域・社会〕〔文化・ 社会〕各コース	社会科学 〔国際・社会〕コース	メディア社会科学				
総合科目	基礎演習	選択							
	視野形成科目	B 群から選択必修 4 単位以上							
	情報教育基礎	選択							
	保健体育科目	必修 2 単位							
	外国語（英語・諸外国語）※1	必修 8 単位							
専門科目	入門科目	6	6	6	6				
	学科共通科目	基礎科目	A 群 6 B 群 12	A 群 6 B 群 12	A 群 4 B 群 12				
		展開科目	8	12	選択	選択			
	コース専門科目	選択必修 (1 つのコースを選択)	A 群 2 B 群 18	18	18	18			
	演習	選択	選択	選択	選択	選択			
	外国語教育プログラム	選択	選択	12 ※2	選択	選択			
自由選択科目									

※1 留学生の場合は、「日本語」から 6 単位と「英語または諸外国語（母語を除く）」から 2 単位の合計 8 単位修得。

※2 社会学部の「国際・社会」コース選択者は、「外国語教育プログラム」に書かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得。

※3 各学科の卒業要件の詳細は、第Ⅳ部の「学科カリキュラム」ページを確認すること。

卒業および進級の扱いについて

卒業および進級の扱いについては法政大学学則に基づき次の通りとする。

- (1) 学位授与の要件である「4力年以上在学し」「卒業所要単位を修得」(学則第49条1項)には、半期在学者の在学期間(0.5年)及びこの期間に修得した単位の累積を含むものとする。
- (2) 卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業または翌年度の進級を認めるものとする。但し、進級の場合は、学生は各年次で通算して1年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならないものとする。なお進級時期は学年度始め(4月)に限る。
- (3) 本人の申請により9月卒業を認めることができるものとする。この場合、事前に「9月卒業申請書」を提出した申請者についてのみ9月卒業判定を行う。
(「9月卒業」については次ページ参照。)

具体的適用例

(1) **卒業の場合** (いずれも判定時に卒業所要単位は充たしているものとする)

a. 3.5年での卒業は認められない(通算在学年数は必ず4.0以上であること)

1年次		2年次		3年次		4年次		在学年数 = 3.5年 卒業保留
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	

b. 4.0年以上の在学年数であれば、半期休学があっても卒業を認める(ただし、2回目の4年次は未修得科目24単位以内の卒業保留者に対する授業料減免措置は適用されない)

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次(卒保)		在学年数 = 4.0年 卒業可 3月卒業(自動的に卒業)
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学		休学		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		0.5	
						休学			休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5		

c. 3.5年の在学年数で卒業保留となり、5年目に「9月卒業申請」のある場合(ただし、2回目の4年次は未修得科目24単位以内の卒業保留者に対する授業料減免措置は適用されない)

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次(卒保)		在学年数 = 4.0年 卒業可 9月卒業(申請による)
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学				
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5		

d. 4.0年の在学年数で3 → 4年に進級し、5年目に「9月卒業申請」のある場合

1年次		2年次		3年次		3年次(留級)		4年次		在学年数 = 4.5年 卒業可 9月卒業(申請による)
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		

(2) 進級の場合 (いずれも4月1日の時点で進級に必要な科目・単位数は満たしているものとする)

a. 累積で進級に必要な在学年数を満たしていれば進級は可

1 年次		1 年次 (留級)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
	休学	休学	
0.5			0.5

在学年数 = 1.0年

1 年次から2 年次への進級可 (自動的に進級)

b. 累積で進級に必要な在学年数を満たしていても、進級は学年度始めに限る

1 年次		1 年次 (留級)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
	休学		
0.5		0.5	0.5

在学年数 = 1.5年

2 年目の春学期末に進級要件を満たしていても

1 年次から2 年次への進級は学年度始めに可 (自動的に進級)

9月卒業 (春学期末卒業) について

9月卒業とは、以下の規定 (学則抜粋) に基づき、春学期末に卒業することである。

(学位の授与)

第49条 4 ヶ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

2 前項の卒業の要件を満たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。

(1) 9月卒業の申請について

9月卒業を希望する者は、社会学部事務課にある所定の用紙に記入し、4月末日までに申請手続きをしなければならない。期限を過ぎての申請は受け付けられない。また、申請後の申請取り下げはできない。詳細は 130 ページを参照すること。

(2) 履修登録について

9月卒業を申請する場合は、本来春学期のみ在籍することになるため、履修登録科目は春学期科目に限られるはずであるが、その場合、万一9月卒業ができなかった場合に秋学期科目の履修ができないことになる。そのため、9月卒業申請者は秋学期分も合わせて1年分の履修登録をすること。ただし、秋学期科目の登録修正が可能である。詳細は 28 ページを参照すること。

「演習3 (卒業論文: 半期)」の履修については 82 ページを参照すること。

詳細は当該年度の掲示および時間割表等を参照すること。

社会学部早期卒業制度について

社会学部では本学部の学生で著しく優秀であると認められ、かつ学部で定める要件を充たしている者に対して早期卒業制度を適用することができることとなった。

この「早期卒業制度」により、優秀な学生の勉学に対するモチベーションを高めることが期待されるとともに、大学院入学、海外留学を考えている学生や経済的に逼迫している家庭の優秀な学生にとって救済となりうることを期待されている。

（１）社会学部早期卒業の要件

早期卒業が認められる学生は、次の①②の２つの要件を両方とも充たす者とする。ただし、再入学（復学・復籍）、転・編入学および転籍した学生は対象としない。

①本学部に３年以上在学し、卒業の要件として本学部が定める単位を優秀な成績（※）をもって修得したと認められること。

②３年次に「演習」を履修し、卒業論文に準ずる論文を作成し、高い評価を得ていること。

（※）「優秀な成績」とは、本学部の定める卒業所要単位のうち、９割以上がＡ－評価以上（「ＲＲ 評価」、「ＲＳ 評価」、および「Ｐ 評価」は含めない）であり、かつ入学時から３年次終了までの通算したＧＰＡ（教職・資格科目など卒業所要単位以外で履修する科目は算入しない）が３.０以上である場合をいう。ただし、本学大学院又は専門職大学院に進学する者については、ＧＰＡの要件を２.７以上とする。

（２）２年次終了時における認定手続

早期卒業を希望する学生は、２年次終了時に本学部長宛てに所定文書にて申し出ること。（「早期卒業」に関する申請方法等については 130 ページ参照。）

社会学部教授会では早期卒業希望者の申請に基づき、２年次終了までの成績等を参考に、成績優秀者として適格か否かの審査を行う。その結果「成績優秀者」と認められた学生に対しては、３年次の履修における履修登録単位の制限を適用しない。

（３）早期卒業の判定

社会学部教授会は、前年度末の時点で「成績優秀者」と認めた学生に対し、３年次終了時に早期卒業の判定を行う。その結果、社会学部早期卒業の要件を充たした場合、早期卒業者の卒業は３年次の３月とする。

なお、社会学部早期卒業の要件を充たさない場合には、早期卒業を認めることはできない。その場合には、当該学生に対して、４年次において本学部が定める卒業要件を充たすことを義務づけるものとする。

3 SSI(Sports Science Institute)について

SSI (Sports Science Institute) は、これからのスポーツ文化の担い手を育てるための専門コースである。SSI では、法政大学生としての総合的な知識を修得するとともに、文化と科学としてのスポーツの理解を図る。

SSI の学生は、それぞれの学部（＝社会学部）に在籍・所属し、学部開講科目を履修し、同時にSSI 科目を履修する。SSI により、学生はスポーツ能力の向上を目指しながら、将来へ向けてより幅広い人生設計が可能となる。

SSI では、スポーツ分野における様々な科目を設置しており、優れたスポーツ選手や指導者を育成すると同時に、スポーツ振興やスポーツビジネス分野においても活躍できる人材を育成することを目標としている。

SSI に参加可能な学生

SSI に参加・受講可能な学生は、スポーツ推薦入学者のうち、入学手続の段階でSSI への参加を選択した学生に限られる（ただし、スポーツ特待生はこの限りでない）。

卒業要件

社会学部を卒業し、学士の学位を得るための卒業所要単位数（卒業に必要な単位数）は、124 単位である。在学年限内に、所属学科の卒業要件を充たさなければならない（詳細は該当ページを参照すること）。SSI 参加学生は、所属学科の卒業要件を充たし、かつ、SSI 基礎科目14 単位、SSI 専門科目30 単位以上を修得することで、社会学士とともにSSI 修了証を取得できる。

SSI 科目（基礎科目・専門科目）について

（１）SSI 基礎科目

- ①7 科目が必修である。SSI を修了するためには14 単位を修得しなければならない。
- ②社会学部の場合、SSI 基礎科目の単位は所属学科卒業要件の「総合科目」に充当される。
- ③キャンパスを越えての受講が可能である。

SSI 基礎科目名	単位	配当年次	充当科目群	充当科目群の詳細
スポーツ心理学	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・A 群
トレーニング科学	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・B 群
スポーツ医学Ⅰ	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・B 群
スポーツ医学Ⅱ	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・B 群
スポーツ経営論	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・C 群
スポーツ指導論	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・D 群
アスリート育成指導法	2	1～4 年次	総合科目	視野形成科目・D 群

（２）SSI 専門科目

- ①卒業するためには、30 単位以上修得しなければならない。
- ②「SSI 専門科目」は、SSI が主催する「SSI 専門科目」、SSI が「SSI 専門科目」に指定した社会学部開講科目（社会学部が開講するSSI 専門科目については、本履修要綱巻末の科目一覧表を参照）、同様にSSI が「SSI 専門科目」に指定した他学部開講科目から成って

いる。

③キャンパスを越えての受講が可能である。

④社会学部が開講する「ＳＳＩ専門科目」は、ＳＳＩが主催する「ＳＳＩ専門科目」、ＳＳＩが「ＳＳＩ専門科目」に指定した他学部開講科目と同様に、「ＳＳＩ専門科目」群（最低修得単位数３０単位以上）の修得単位数にカウントされる。

さらに、社会学部が開講する「ＳＳＩ専門科目」の単位は、本履修要綱巻末の科目一覧表の位置づけに応じて社会学部の卒業所要単位となる。なお、社会学部開講の「ＳＳＩ専門科目」のうち、所属学科カリキュラムにない他学科の入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目は、「学科専門科目」ではなく「自由選択科目」の単位となるので注意すること。社会学部開講科目以外の「ＳＳＩ専門科目」も、自由選択科目の単位となる。

※ 他学部のＳＳＩとは、異なるルールなので十分注意すること。

第Ⅱ部

履修登録について

1	履修登録の流れ	22
2	履修登録単位数について.....	25
3	履修前提科目について	27
4	秋学期の登録修正	28

1

履修登録の流れ

単位を修得するには、その年度に履修する科目を大学に届け出る「履修登録」が必要である。

学生は、履修しようとする授業科目を、毎年所定の期間内に大学へ届け出て、承認を得なければならない。履修登録に関する手続きおよびスケジュールは、時間割表（時間割表公開後の追加・変更の場合は掲示）で発表するので、期間厳守で行うこと。

履修登録上の注意点

- ① 履修登録は、年度当初の年1回とする。年度当初の登録時に、秋学期分も含めて登録すること。
- ② 履修申請期間以降、履修登録した科目の変更は一切認めない（秋学期科目の登録修正を除く）。
- ③ 同一時間（同一時限、同一授業期間）に2科目以上を履修することはできない。
- ④ 過年度に単位修得済の科目を履修することはできない。
- ⑤ 市ケ谷および小金井キャンパス開講科目と多摩キャンパス開講科目を、同じ曜日に履修することはできない（ただし、資格科目及びグローバル教育センター主催科目を除く）。
- ⑥ Basic English 1・2、諸外国語初級 A・B、スポーツ総合1・2、情報教育基礎のセット科目を履修する場合には、春・秋学期同じ担当者の授業を履修しなければならない。
- ⑦ 科目名「〇〇Ⅰ」「〇〇Ⅱ」を履修する場合は、毎年の講義概要（シラバス）で各教員からの指示を確認し、それを優先させること。

履修科目の決定

履修登録科目の決定の前に、入学年度や学科によって異なる卒業所要単位や進級・卒業要件を正しく理解し、年間履修計画を立てる。

2年目以降は、履修科目を決定する前に、前年度の成績通知書で修得済みの科目群、科目名を確認した後で、新年度の時間割や各自希望する授業科目の『講義概要（シラバス）』を読み、各自の責任において、慎重に履修登録科目を決定すること。

履修科目決定の手順

- ① 語学や体育、学科の入門科目のように、予めクラスが指定されている科目や、抽選によってクラスが決定する科目を先に決定して、残っている時間に興味のある科目を埋めていく。
- ② 抽選や受講許可が必要な科目は、必ず抽選・受講許可を受ける。
※ 抽選に漏れてしまった場合や受講許可がない場合は、履修登録をしないこと。履修登録上エラーにはならないが、評価の対象とはならないので、単位の修得はできない。
- ③ 学科カリキュラムに設置された少人数科目の中には、「学科優先科目」に指定されているものがある。卒業機会を保证するため、「学科優先科目」の受講許可は、当該学科所属学生に優先的に与えられる。その学科に所属しない学生も「学科優先科目」の受講を希望することができるが、受講希望者が多い場合、他学科所属学生は受講許可が得られない場合もある。「学科優先科目」に指定されていない科目は、所属学科にかかわらず受講することができる。
- ④ 希望する科目の「講義概要（シラバス）」を参照し、授業に出席し、履修する科目を決定すること（秋学期科目は授業開始前に履修を決定することになるので、慎重に決定すること）。

- ⑤履修登録する内容が、進級に関する規程や卒業要件を満たしているかを必ず確認する。
なお「講義概要（シラバス）」は Web 上で公開されている。
- ⑥最後に、履修登録単位数が、年間および半期ごとの履修登録単位の上限を超えていないかを確認する。

履修登録の申請

学内外の PC から「法政大学情報システム」にログインし、「履修申請」機能を用いて Web による履修登録申請を行うこと。詳細は「法政大学情報システム（履修申請）操作ガイド」を参照すること。

＜法政大学情報システム ウェブ版 URL＞

<http://www.as.hosei.ac.jp/>

＜法政大学情報システム スマートフォン版 URL＞

<https://www.as.hosei.ac.jp/kyomu/smartphone/>



※ 3 年生は履修登録の申請を行う前に、「キャリア就職システム」に進路希望登録が済んでいないと、「キャリア就職システム」の登録画面に遷移し、入力が求められる。

登録が完了するまで履修登録の申請ができないため、事前に「キャリア就職システム」で進路希望登録を行うこと。

＜キャリア就職システム URL＞

<http://www.hosei.ac.jp/careercenter/zaigakusei/system.html>

注意事項 指定された期日までに履修登録申請を行わない場合は、新入生は除籍（学則第 39 条）、2 ～ 4 年次は留級になるので注意すること。

「履修登録科目確認通知書」について

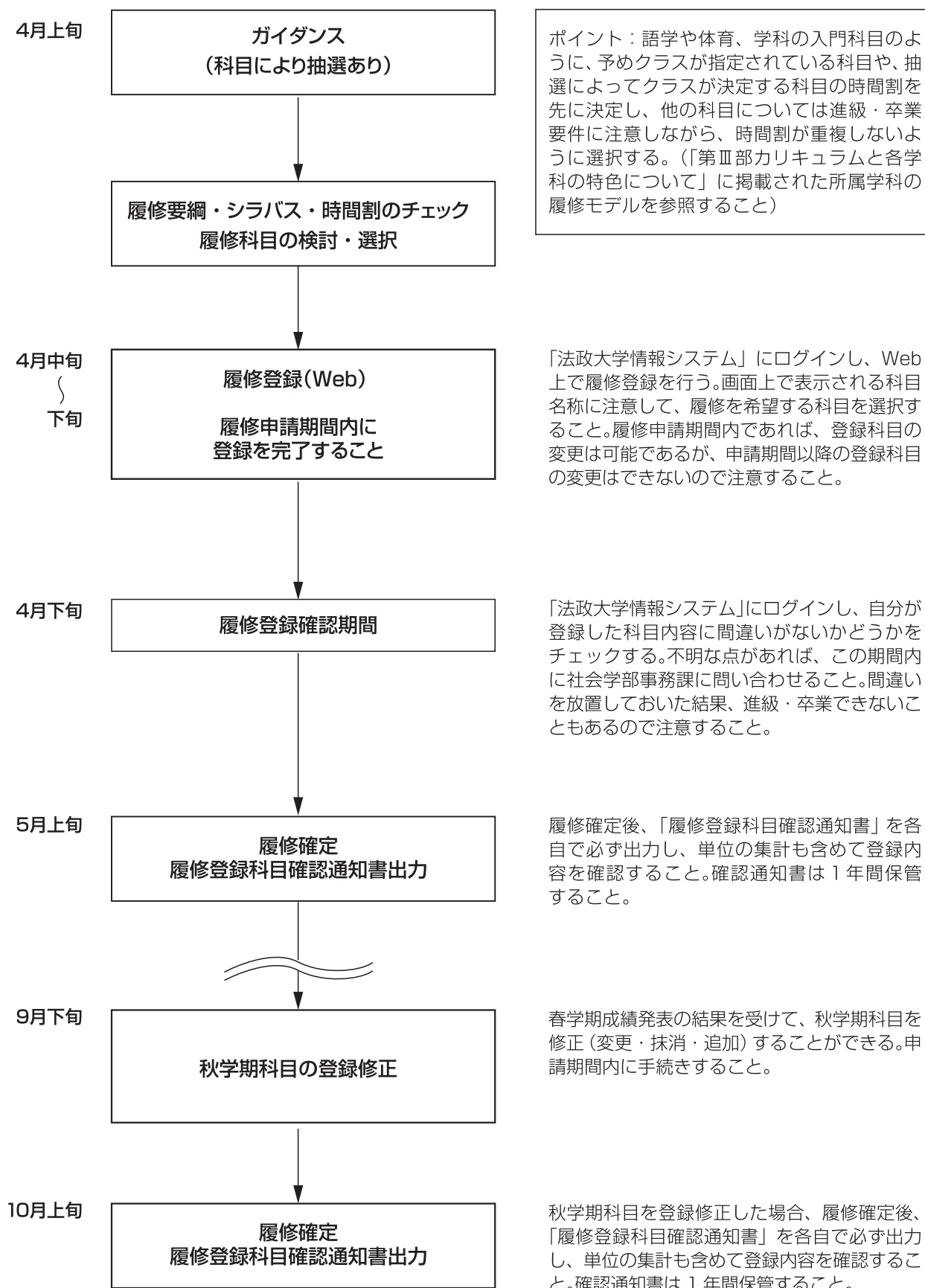
「履修登録科目確認通知書」とは、履修申請した科目や自動的に登録された科目の内容を一覧にしたものである。これを各自で「法政大学情報システム」により出力し自分の登録に誤りがないかどうかを必ず確認し、保管すること。通知書の確認を怠ったために誤った内容のまま履修を続け、結果的に単位を修得できなかった例が毎年何件もあるので注意すること。

注意事項 間違いがあるにも関わらず、それを放置しておくで全ての科目が登録されない。エラーがなくなるまで履修申請を行い、履修登録科目確認通知書で登録科目を確認すること。

履修申請をやり直さなければならない場合

- ① 履修上限エラー：
春・秋学期履修上限エラー、年間履修上限エラーなど、履修可能な単位数の上限を超えている。
- ② 要件グループ下限エラー：
カリキュラムの科目要件のグループ内での下限を下回り進級・卒業ができない。
- ③ 要件グループ必修エラー：必修グループの単位数を充たしていない。

履修登録の流れ図



2

履修登録単位数について

履修登録単位の上限

1 年間に履修登録可能な単位は、以下の通りである。各年次とも、年間履修単位の上限のほかに、半期ごとの履修登録単位の上限が設定されている。留級・卒業保留となった者についても上限は同様である。前年度までに未修得単位が多い場合には注意が必要である。

科目		学年		1 年		2 年		3 年		4 年	
総合科目 専門科目 自由選択科目 SSI 科目		年間	40		40		40		49		
		半期 ※1	春学期 科目	秋学期 科目	春学期 科目	秋学期 科目	春学期 科目	秋学期 科目	春学期 科目	秋学期 科目	
			2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2	2 6	2 6	
教職課程科目（卒業所要単位 科目を除く）※2			+ 1 0		+ 2 4		+ 2 4		+ 2 4		
登録総合計（教職・資格課程 科目を含む）※3			6 2		6 8		6 8		7 3		

※1 通年科目の単位数は、半期科目の履修上限単位数に含まない。

※2 教職課程科目については、春学期・秋学期ごとの履修単位数の上限はないが、春学期科目・秋学期科目・通年科目を合わせた単位数が、教職課程科目の年間履修上限単位を超えないようにすること。

※3 教職課程科目および資格課程科目の履修単位数は、「教職・資格課程履修要綱」を参照のこと。

履修単位の計算方法は以下のとおりである。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{春学期授業科目} \\ \text{の履修単位数} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{秋学期授業科目} \\ \text{の履修単位数} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{通年授業科目} \\ \text{の履修単位数} \\ \hline \end{array} \leq \begin{array}{|c|} \hline \text{年間履修} \\ \text{上限単位数} \\ \hline \end{array}$$

※1 年生が春学期授業・秋学期授業それぞれ半期上限の22単位まで登録した場合

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{春学期授業科目} \\ \text{登録単位 22} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{秋学期授業科目} \\ \text{登録単位 22} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{年間授業科目の} \\ \text{登録単位数 44} \\ \hline \end{array}$$

年間履修登録上限単位は 40 単位のため 履修登録エラー

※例えば2年生が、通年科目を1科目（4単位）、春学期授業科目を上限の22単位登録した場合、秋学期授業科目の登録上限単位数は以下のように計算する。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{年間履修上限} \\ \text{単位数 40} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{春学期授業科目} \\ \text{登録単位 22} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{通年授業科目} \\ \text{登録単位 4} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{秋学期授業科目の} \\ \text{登録上限単位数 14} \\ \hline \end{array}$$

教職課程科目の履修登録の上限

	1 年次生	2 年次生	3 年次生	4 年次生
教職課程科目の年間履修 上限単位数	10 単位	24 単位	24 単位	※

※ 4 年次生は、卒業所要単位科目の履修登録単位上限（49 単位）に 24 単位を加算した 73 単位
以内で履修することができる。詳細は「教職・資格課程履修要綱」を参照のこと。

資格課程科目の履修登録の上限

資格課程科目については、履修登録単位に上限を設けていないため、2～4 年次は登録総合計単
位の 68 単位（4 年次は 73 単位）以内で自由に履修できる。1 年次生についても履修登録単位の
上限はないが、履修可能な資格課程科目には限りがある。詳細は「教職・資格課程履修要綱」を参
照のこと。

成績優秀者の特例措置

早期卒業を申請する資格に相当する成績優秀者（GPA が 3.0 以上かつ A－、A、A＋、S が 9
割以上）に対して、上限単位数を 8 単位引き上げる（教職・資格課程を除く）。詳細は 4 月初旬に該
当者に通知する。

3 履修前提科目について

社会学部が提供する科目の中には、「履修前提科目」が指定されているものがある。履修前提が設定された科目の履修登録には、指定された「履修前提科目」の単位の修得が必要となる。履修前提科目の単位が未修得の場合、当該科目の履修登録自体ができないので注意してほしい。表1に、履修前提が設定された科目の一覧が示されている。履修計画を立てる前に、まず表1を確認し、計画的に4年間の履修を進めること。

特に、秋学期に開講される科目の履修前提科目を春学期に登録し、単位を修得できなかった（不合格または未受験）場合は、秋学期開始時にその科目の登録が自動的に削除されるので注意が必要である。この削除に伴う追加登録は秋学期所定期間に「法政大学情報システム」(Web 履修登録申請)で行うことができる。ただし、社会学部事務課で別に申請が必要な科目がある。申請方法は掲示を確認すること。

表1 履修前提科目の修得が必要な科目の一覧

	科目配置	科目名	左記科目の履修前提科目	履修前提不合格に伴う秋学期登録抹消
総合科目	基礎演習	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ	○
	情報教育基礎	プログラミング入門	コンピュータ入門	○
	情報教育基礎	統計基礎実習	プログラミング入門	
	情報教育基礎	プログラミング初級	プログラミング入門	
	外国語	諸外国語初級B	諸外国語初級A	○
メディア社会学科カリキュラム	学科共通展開	プログラミングと論理的思考	プログラミング入門	
	学科共通展開	ウェブ・プログラミングA		
	学科共通展開	ウェブ・プログラミングB		
	学科共通展開	システム・プログラミングA		
	学科共通展開	システム・プログラミングB		
	学科共通展開	メディアプログラミング実習		
	メディア表現コース	情報科学とコミュニケーション		
	メディア表現コース	物語シミュレーション		
	メディア分析コース	消費者行動モデリング		
	メディア分析コース	マーケティング実践		
	メディア分析コース	都市空間分析		
	メディア設計コース	意思決定論		
	メディア設計コース	デジタル情報環境実習		
	メディア設計コース	ソーシャルメディア実習		
外国語教育プログラム	Advanced English Program	Advanced English Program 科目	Basic English 1- I・II	
	諸外国語中級プログラム	諸外国語中級プログラム科目 ※ドイツ語・フランス語・中国語	諸外国語初級B(及びA) ※ドイツ語・フランス語・中国語	
	諸外国語中級プログラム	諸外国語中級4	諸外国語中級1	○
	諸外国語中級プログラム	諸外国語中級5	諸外国語中級2	○
	諸外国語中級プログラム	諸外国語中級6	諸外国語中級3	○
	諸外国語選択科目	スペイン語中級1・2・3・4	スペイン語初級B(及びA)	
	諸外国語選択科目	ロシア語中級1・2・3・4	ロシア語初級B(及びA)	
	諸外国語選択科目	朝鮮語中級1・2・3・4	朝鮮語初級B(及びA)	

4 秋学期の登録修正

履修登録は、年度当初の履修登録期間中に、不備がないよう計画的に、当該年度に履修しようとする全ての科目（春学期科目・秋学期科目・通年科目）を登録しなければならない。秋学期所定期間に秋学期科目を登録修正（変更・抹消・追加）することができるが、春学期に不合格となった単位分を追加することはできない。また、秋学期科目の登録修正では、進級および卒業要件に関わる不足を充たすことができない場合がある。

1. 修正方法について

秋学期科目の登録修正は「法政大学情報システム」（Web 履修登録申請）を利用して修正を行うこと。

※ 以下の科目が春学期に不合格となった場合、所定期間内に社会学部事務課に申請することで秋学期に開講している同名科目に修正することができる。申請方法は掲示を確認すること。

諸外国語初級 A・B（ドイツ語・フランス語・中国語）

演習 3（卒業論文：半期）

Basic English 2- I・2- II（3年次のみ）

2. 修正不可科目

（1）通年科目・春学期科目

（2）抽選科目

（3）受講許可科目

（4）自動登録科目（時間割参照）

※ 「進級不可」や「卒業不可」となるような抹消はできない。

3. 追加登録単位について

「年度当初の履修登録」において、秋学期の履修登録単位数および年間合計（春学期＋秋学期＋通年科目）の履修登録単位数が「履修登録単位の上限」に達していない場合に限り、その上限まで秋学期科目を追加することができる。ただし、秋学期科目の登録修正では春学期に不合格となった単位分を追加することはできない。

※ 春学期終了時点で、27 ページに記載されている履修前提科目が未修得の場合、対象の秋学期科目が自動削除となる。この削除に伴う追加登録は秋学期所定期間に「法政大学情報システム」（Web 履修登録申請）で行うことができる。

追加を含む秋学期科目の修正単位数は、以下の【例 1】【例 2】を参照すること（下線は秋学期の単位数、二重線は年間合計（春学期＋秋学期＋通年科目）の単位数）。

【例１】秋学期科目の追加ができる場合

履修登録 単位の上限			年度当初の 履修登録単位			秋学期科目の 登録修正単位		
<u>年間合計 40</u>			<u>年間合計 38</u>			<u>年間合計 40</u>		
通年 —	春学期 22	秋学期 <u>22</u>	通年 4	春学期 20	秋学期 <u>14</u>	通年 4	春学期 20	秋学期 <u>16</u>

計算方法

<年間合計> 履修登録単位の上限40単位 - 年度当初の履修登録38単位 ⇒ 2単位

<秋学期> 履修登録単位の上限22単位 - 年度当初の履修登録14単位 ⇒ 8単位

⇒秋学期上限まで8単位の余裕はあるが、年間合計上限の残り2単位を超えることはできない

秋学期科目の追加登録単位数 2単位

2単位分の追加を含む 16 単位分の秋学期科目の登録修正ができる。

【例２】秋学期科目の追加ができない場合

履修登録 単位の上限			年度当初の 履修登録単位			秋学期科目の 登録修正単位		
<u>年間合計 40</u>			<u>年間合計 40</u>			<u>年間合計 40</u>		
通年 —	春学期 22	秋学期 <u>22</u>	通年 4	春学期 22	秋学期 <u>14</u>	通年 4	春学期 22	秋学期 <u>14</u>

計算方法

<年間合計> 履修登録単位の上限40単位 - 年度当初の履修登録40単位 ⇒ 0単位

<秋学期> 履修登録単位の上限22単位 - 年度当初の履修登録14単位 ⇒ 8単位

⇒秋学期上限まで8単位の余裕はあるが、年間合計上限まで既に登録しているため追加できない。

秋学期科目の追加登録はできない。

14 単位分の秋学期科目の登録修正ができる（追加はできない）。

注意：春学期終了時点で留級確定者に該当するかどうかは、春学期成績通知書に進級・留級の表示がないので、各自が履修登録科目確認通知書と春学期成績通知書を見て、春学期終了時点で判断しなくてはならない。春学期の段階で留級が確定した場合であっても大学から個別に連絡を行わないので注意すること。

第Ⅲ部

カリキュラムと各学科の 特色について

1	総合科目	33
2	学科カリキュラム	43
3	学部共通の専門科目	81
4	自由選択科目	89

第 1 章 総合科目

このセクションは 3 学科共通である。
所属学科に関わりなく目を通すこと。

基礎演習.....	34
外国語.....	35
情報教育基礎.....	39
視野形成科目.....	40
保健体育科目.....	41

総合科目は、大学での学修の基礎となる事項や、所属する学科に関わらず身につけるべき知識や技能を修得するための科目からなる。1年次を中心に低学年の間に履修しておくことが望ましい科目群と、4年間を通じて自由に履修できる科目群がある。

総合科目は、基礎演習、外国語、情報教育基礎、視野形成科目、保健体育科目で構成される。

基礎演習

基礎演習では、論文・レポートの書き方、発表・討論のしかた、資料収集の方法など大学生に必要な勉強の方法や技術を修得する。基礎演習のねらいは、少人数での学習・討論を通して、大学生に必要な自主的な学習の方法を修得し、視野を広げ、社会現象への関心を深めることにある。基礎演習は選択科目だが、教員と直接交流しながら学修を深める絶好の機会なので積極的に参加することが求められる。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分
基礎演習Ⅰ	2	1～2年次	選択
基礎演習Ⅱ	2	1～2年次	選択

基礎演習：履修上の注意

- ◆「基礎演習」は、25名程度の少人数クラスで実施するため、クラス指定を行う。指定されたクラスで受講すること。
- ◆基礎演習は、「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」とセメスターごとに開講され、2年次まで履修できる。「基礎演習Ⅰ」が「基礎演習Ⅱ」の履修前提科目であるため、「基礎演習Ⅰ」の単位を修得するまで「基礎演習Ⅱ」の履修はできない。
- ◆「基礎演習」は2年次以降の専門演習に直接つながるものではない。

外国語

外国語は、留学生以外を対象とした外国語（英語）と外国語（諸外国語）、外国人留学生を対象とした外国語（日本語）と外国語（英語・諸外国語）から成っている。

※スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104 ～ 106 ページを参照すること）。

外国語（英語） 留学生以外

<必修授業>

英語では、Basic English 1- I・II、2- I・II が必修科目として設置されている。この Basic English 1- I・II を修得すると、「Advanced English Program」の諸科目を選択履修することが可能になる。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分
Basic English 1- I	1	1 年次	必修
Basic English 1- II	1	1 年次	必修
Basic English 2- I	1	2 年次	必修
Basic English 2- II	1	2 年次	必修

Basic English 1－I・II、2－I・II：履修上の注意

- ◆4 年次に進級するためには、「Basic English 1- I・II、2- I・II」合計 4 単位の修得が必要である。
- ◆ Basic English 単位認定試験について
Basic English 1- I・II、2- I・II は、いずれも単位認定試験を受験・合格することにより 4 月の段階で単位修得が可能である。社会学部では、TOEFL® -ITP 試験において、一定以上の得点を得ている者に単位認定試験の受験を推奨しており、希望者が試験を受験し、合格することによって単位が付与される。詳細については、掲示板などに掲示されるので注意すること。なお、認定された Basic English 1- I・II、2- I・II の単位は、履修登録単位の上限に含まれる。

外国語（諸外国語） 留学生以外

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、朝鮮語の6言語について初級クラスが開講されている。なお、ドイツ語、フランス語、中国語はⅠ群言語、ロシア語、スペイン語、朝鮮語はⅡ群言語として区別されており、再履修クラスの設置方法や中級プログラムの有無など、いくつかの相違点が存在するので注意すること。

群	Ⅰ群言語	Ⅱ群言語
言語	ドイツ語、フランス語、中国語	ロシア語、スペイン語、朝鮮語
必修単位数	初級 A・B（各2単位 × 2 = 計4単位）	
選択科目	最大で38単位まで （※中国語のみ40単位まで）	最大で8単位まで
中級プログラム	あり	なし
再履修の形態	セメスターごと （秋学期履修変更の対象となる）	年度ごと （秋学期に履修変更はできない）

<必修授業>

必修の「諸外国語初級 A」「諸外国語初級 B」は時間割で指定したクラスの授業を履修する。「初級 A」「初級 B」は、二人の教員によるリレー方式で授業が行われ、成績の合否判定も両者の合議で行われる。またこれらの科目は、積み上げ方式の授業であるので、「初級 A」の単位を修得できなかった学生は、単位を修得するまで「初級 B」の履修はできない。同様に「初級 B」の単位が修得できなかった場合、同一言語の中級科目の履修はできない。

<選択授業>

諸外国語は、必修単位の他に、自分の興味関心に基づいて他の言語を学ぶことが可能である。すなわち、必修単位とは異なる言語の諸外国語初級を追加的に履修することが可能である。Ⅰ群言語のほかにⅡ群言語を置いて多様な言語学習を可能にしている理由も、こういった追加的な履修を容易にすることにある。

追加的に諸外国語を学ぶ場合は、履修年次に制限はなく、1年次から4年次までのいつでも学習が可能である。この場合、4月に「初級言語追加履修届」を提出すること。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分
諸外国語初級 A	2	1年次	必修
諸外国語初級 B	2	1年次	必修
諸外国語初級 A 諸外国語初級 B	各2	1～4年次	選択（上記必修科目とは別途に他の外国語を履修）

諸外国語初級 A・B：履修上の注意（留学生以外）

- ◆ 4年次に進級するためには、必修外国語として登録した「諸外国語初級 A・B」合計4単位の修得が必要である。
- ◆ 「初級 A」が「初級 B」の履修前提科目であるため、「初級 A」の単位を修得するまで「初級 B」は履修できない。春学期に「初級 A」の単位を修得できなかった場合、秋学期開始時に「初級 B」の履修登録が無効となる（削除される）ので注意すること。
- ◆ I 群言語（ドイツ語、フランス語、中国語）については、所定の手続きをとることにより秋学期に「初級 A」、春学期に「初級 B」を履修することができる。
- ◆ 諸外国語初級 A・B 単位認定試験について
I 群言語（ドイツ語・フランス語・中国語）の「諸外国語初級 A・B」は、いずれも単位認定試験を受験・合格することにより4月の段階で単位修得が可能である。詳細については、掲示板などに掲示されるので注意すること。なお、認定された「諸外国語初級 A・B」の単位は、履修登録単位の上限に含まれる。
- ◆ 諸外国語の6つの言語のうち、いずれを「卒業要件としての必修授業言語」とするかは、学生個人の登録によるものであり、原則として入学時に登録した言語となる。ただし、卒業までに1回に限り、登録言語の変更届を出すことにより変更が可能である。

外国語（日本語） ※ 留学生対象

<必修授業>

日本語は外国人留学生に向けて、「日本語 1 - I・II」「日本語 2 - I・II」「日本語 3 - I・II」が必修科目として設置されている。時間割で指定したクラスの授業を履修する。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分
日本語 1 - I 日本語 1 - II 日本語 2 - I 日本語 2 - II	1 1 1 1	1 年次 1 年次 1 年次 1 年次	必修 ※ 留学生対象
日本語 3 - I 日本語 3 - II	1 1	2 年次 2 年次	必修 ※ 留学生対象

日本語 1 - I・II、2 - I・II、3 - I・II：履修上の注意（留学生）

4 年次に進級するためには、「日本語 1 - I・II、2 - I・II、3 - I・II」合計 6 単位の修得が必要である。

外国語（英語・諸外国語） ※ 留学生対象

<選択必修授業>

外国人留学生に向けて、「Basic English 1 - I・1 - II」「Basic English 2 - I・2 - II」「母語を除く諸外国語初級 A・B」が選択必修科目として設置されている。このうち 2 単位を修得することが 4 年次への進級要件である。英語・諸外国語の履修に関する留意事項は前項を参照すること。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分	備考
Basic English 1 - I Basic English 1 - II	1 1	1 年次 1 年次	選択必修 ※ 留学生対象	2 単位以上修得すること
Basic English 2 - I Basic English 2 - II	1 1	2 年次 2 年次		
諸外国語初級 A 諸外国語初級 B	2 2	1 年次 1 年次		

情報教育基礎

下記の4科目は、学科を問わず、社会学部の学生が身につけることが望ましいと考えられる情報教育の導入・入門科目である。特に、「コンピュータ入門」「プログラミング入門」は1年次に履修することが望ましい。メディア社会学科カリキュラムにはこの2科目の修得を履修前提とする科目が多いので、メディア社会学科に所属する学生は注意が必要である（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分
コンピュータ入門	2	1～4年次	選択
プログラミング入門	2	1～4年次	選択
プログラミング初級	2	2～4年次	選択
統計基礎実習	2	2～4年次	選択

情報教育基礎：履修上の注意

- ◆「コンピュータ入門」「プログラミング入門」は、春学期・秋学期のセットで履修をすること。
- ◆「コンピュータ入門」が「プログラミング入門」の履修前提科目であるため、「コンピュータ入門」の単位を修得するまで「プログラミング入門」の履修はできない。
- ◆複数開講科目であり、各自の時間割、興味や関心に合わせていずれか各1コマを選択・履修できるが、「コンピュータ入門」「プログラミング入門」の履修は抽選によるため、年度初めの履修手続きについては、遺漏がないように注意すること。

視野形成科目

人文科学、自然科学、社会科学、キャリア形成の各分野に渡り、幅広い視野と問題意識を形成し、思考力と判断力を伸ばすことを目指す。A 群は人文科学系、B 群は自然科学系、C 群は国際・社会科学系、D 群はキャリア形成系科目からなる。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	心理学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	
	現代史Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	文学	半期2単位		
	創作表現論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	哲学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	人間論	半期2単位		
	地理学Ⅰ・Ⅱ（※）	半期各2単位		
	特殊講義	半期2単位		
	スポーツ心理学【SSI 学生のみ】	半期2単位	1～4年次	
B 群	生命の科学	半期2単位	1～4年次	4単位以上 修得
	環境生態学	半期2単位		
	基礎数学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	統計学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	地球と自然Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位		
	自然科学特講（生命科学）	半期2単位		
	自然科学特講（数学）	半期2単位		
	自然科学特講（地学）	半期2単位		
	物理学Ⅰ・Ⅱ（※）	半期各2単位		
	科学史（※）	半期2単位		
	特殊講義	半期2単位		
	トレーニング科学【SSI 学生のみ】	半期2単位	1～4年次	
	スポーツ医学Ⅰ・Ⅱ【SSI 学生のみ】	半期各2単位		
C 群	社会思想史Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	
	国際社会論	半期2単位		
	平和論	半期2単位		
	法と社会	半期2単位		
	法律学（日本国憲法）	半期2単位		
	法律学	半期2単位		
	アメリカのジャーナリズム	半期2単位		
	特殊講義	半期2単位		
	スポーツ経営論【SSI 学生のみ】	半期2単位	1～4年次	
D 群	キャリアデザイン論	半期2単位	1～2年次	
	職業社会論	半期2単位	1～4年次	
	雇用と法	半期2単位		
	身体論	半期2単位		
	多摩地域形成論	半期2単位		
	社会を変えるための実践論	半期2単位		
	特殊講義	半期2単位		
	スポーツ指導論【SSI 学生のみ】	半期2単位		
	アスリート育成指導法【SSI 学生のみ】	半期2単位		

視野形成科目：履修上の注意

- ◆卒業所要単位として B 群から 4 単位を修得しなければならない。
- ◆※ 印のついた科目は、経済学部が主催する科目である（合併科目）。履修する際には、科目により受講人数を制限することがある。

保健体育科目

保健体育科目は、講義と実技を通じて、健康とスポーツについての知識と技能を修得することを目的とする。「スポーツ総合 1-Ⅰ」「スポーツ総合 1-Ⅱ」（各 1 単位）合計 2 単位が必修であり、さらに希望する学生は「スポーツ総合 2-Ⅰ」「スポーツ総合 2-Ⅱ」を選択履修できる。いずれも、実技と講義を織り交ぜた毎週 1 回半期の授業で 1 単位が修得できる。

授業科目	単位数	履修年次	必修選択の区分	備考
スポーツ総合 1-Ⅰ スポーツ総合 1-Ⅱ	1 1	1 年次	必修 必修	受講クラスなどについては、「スポーツ総合時間割表」を参照。
スポーツ総合 2-Ⅰ スポーツ総合 2-Ⅱ	1 1	2～4 年次	選択 選択	

保健体育科目：履修上の注意

- ◆「スポーツ総合 1-Ⅰ」「スポーツ総合 1-Ⅱ」合計 2 単位の修得が、4 年次への進級要件である。
- ◆「スポーツ総合 1-Ⅰ」「スポーツ総合 1-Ⅱ」を 2 年次以降に履修することも可能だが、2 年次以降は、卒業に必要な他の授業と時間割が重複する可能性があるため、原則として 1 年次に履修すること。
- ◆「スポーツ総合 1-Ⅰ」「スポーツ総合 1-Ⅱ」は、クラス指定を行う。「スポーツ総合時間割表」で指定されたクラスで春学期、秋学期ともに同一の曜日・時限・担当者のクラスを履修登録し受講すること。春学期・秋学期で異なるクラスを履修登録することはできない。

第2章 学科カリキュラム

このセクションは所属学科カリキュラムを中心に読み、関心に応じて他学科カリキュラムを参照すること。

所属学科カリキュラムにない他学科科目は「自由選択科目」として卒業所要単位に算入される。

社会政策科学科カリキュラム 44 ~ 54

社会政策科学科

社会学科カリキュラム 55 ~ 68

社会学科

メディア社会学科カリキュラム 69 ~ 79

メディア社会学科

基本文献一覧 80

教育理念と教育目的

社会政策科学科の教育理念は、総合的な視野と市民の視点で政策を構想し、提案できる人材を育成することである。このために、経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学など、社会諸科学の知識を応用し、現代のさまざまな社会問題を発見・分析し、解決するための政策づくりを市民の視点で担える人材を育成するカリキュラムを設置している。

社会問題を発見・分析し、その解決について考えるためには、社会諸科学の理論と方法とともに、問題が生じる具体的な脈絡に沿って学ぶことが重要となる。このため、21世紀の社会においてとりわけ重要な「企業と社会」・「サステナビリティ」・「グローバル市民社会」という3つの視点から、政策の実態を具体的に学べるよう、3つのコースが設定されている。社会政策科学科カリキュラムの全体を通して、人々がより生活しやすい社会をつくるために、理論や分析方法の学修に加え、社会問題の現場での実習を行うことで、行政・企業・NGO・シンクタンクなどの分野で、政策提言ができる力を身につけるよう工夫がなされているので、意欲的に取り組んでほしい。

ディプロマ・ポリシー（学部および学科）

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

社会政策科学科では、学部が指定する上記の要件に加えて、以下の能力を修得した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。

1. 経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学などの知識を身につけている。
2. 社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。
3. 課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。

卒業要件

表 1-1 社会政策科学科卒業要件

区分・科目群				卒業所要単位					
総合科目	基礎演習		選択			30 単位以上	124 単位以上		
	視野形成科目		B 群から選択必修 4 単位以上						
	情報教育基礎		選択						
	保健体育科目	スポーツ総合 1	必修 2 単位						
		スポーツ総合 2	選択						
	外国語	Basic English 1・2	必修 4 単位 (留学生以外)	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位					
		諸外国語初級 A・B	必修 4 単位 (留学生以外)						
日本語 1～3		◆留学生対象◆ 必修 6 単位							
専門科目	学科専門科目	入門科目		選択必修 6 単位以上				74 単位以上	
		学科共通科目	基礎科目	選択必修 12 単位以上					
			展開科目	選択必修 8 単位以上					
		コース専門科目	企業と社会コース	選択必修 (1つのコースを選択)	A 群	2単位以上			18単位以上
			サステイナビリティコース		B 群				
			グローバル市民社会コース						
	演習		選択						
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム		選択					
諸外国語選択科目									
自由選択科目									

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位 6 単位は、2 年次までに単位修得しなければならない（3 年次への進級要件）。
- ◆各コースに 1 年次から履修できるコース専門科目（A 群科目）が 2 つずつ設定されている。各コースで扱う問題領域の概略を知ることができるので、ぜひ 1 年次にさまざまなコースの A 群科目を履修してほしい。ただし、卒業には、選択したコースから、A 群科目 2 単位を含めて合計 18 単位の修得が必要である。1 年次に修得した A 群科目のコースと異なるコースを選択した場合は、2 年次以降に、選択したコースの A 群科目 2 単位を修得しなければならないことに注意しよう。

入門科目

「入門科目」では、社会政策科学科が視座とする学問領域、学問的な方法論ごとに科目が構成されており、それぞれの理論的土台やキーワードを学ぶ。

授業科目	単位数	履修年次	備考
社会政策科学入門 A	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 B	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 C	半期2単位	1～4年次	
社会政策科学入門 D	半期2単位	1～4年次	

入門科目：履修上の注意

入門科目6単位の修得が、3年次への進級要件である。

社会問題や政策にアプローチするための、また2年次以降の学科専門科目を学ぶための共通の前提となることから、この4科目については1年次ですべての科目を履修することが推奨される。

学科共通基礎科目

「学科共通基礎科目」には、政策課題の発見・分析・解決のために必要となる本格的な基礎理論を学ぶ科目を配置している。具体的には、経済学、法学、政治学、社会学等の学問領域を中心に、組織論や社会調査関係の科目が用意されている。

これらをコース専門科目や演習等と並行的に履修することで、現代のさまざまな社会問題に対して、市民の視点から、学問的にアプローチする能力を形成することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
政治学理論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
日本経済論	半期2単位	2～4年次	
憲法	半期2単位	2～4年次	
民法（総則）	半期2単位	2～4年次	
民法（財産法）	半期2単位	2～4年次	
ミクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
マクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
組織論	半期2単位	2～4年次	
政策データ分析実習	半期2単位	2～4年次	
社会学理論AⅠ・AⅡ	半期各2単位	2～4年次	
社会学理論BⅠ・BⅡ	半期各2単位	2～4年次	
社会調査のリテラシー	半期2単位	1～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通基礎科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通基礎科目 12 単位を修得しなければならない。

学科共通展開科目

「学科共通展開科目」には、政策課題の発見・分析・解決に取り組むための能力を養い、政策を形成するうえで基盤となる諸科目を配置している。具体的には、政策の形成・実施に当たって必要となる考え方や手法を学ぶ諸科目を中心に、実習や外書講読などの少人数科目等も用意している。

これらの科目をコース専門科目や演習等と並行的に履修することで、それぞれの問題意識に応じて、社会的な課題について実践的に学習・研究を進め、あるいはその解決の道筋を構築するうえでの基盤となる能力を形成することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
財政学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
行政学	半期2単位	2～4年次	
行政法Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
政策と制度	半期2単位	2～4年次	
人的資源論	半期2単位	2～4年次	
政策フィールドワーク実習	半期2単位	2～4年次	
統計調査法	半期2単位	2～4年次	
ソーシャルメディア論	半期2単位	2～4年次	
ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）1A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）1B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）2A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）2B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）3A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会政策科学）3B	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通展開科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通展開科目8単位を修得しなければならない。

コース専門科目

社会政策科学科の学生は、1年次の秋学期に、「企業と社会」「サステナビリティ」「グローバル市民社会」の3つのうちいずれかのコースひとつを選択することになる。

コースの選択は、社会学部事務課へ提出する「コース選択希望登録票」によって行う。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、「入門科目」等でコース選択のためのガイダンスを行うので、授業での案内や掲示に十分注意すること。

2年次以降ではそこで選択した「コース専門科目」を中心に履修することになるが、各コースに1年次から履修できるコース専門科目（A群科目）が2つずつ設定されている。これらでは各コースで扱う問題領域の概略を知ることができるので、ぜひ1年次にさまざまなコースのA群科目を履修し、各コースの問題設定についての理解を深めるとともに、2年次のコース選択に向けた検討材料としてほしい。

もっとも社会政策科学科では、各コースの内容や科目は必ずしも排他的なものではないので、選んだコース以外でも、関連する科目や興味を持った科目は積極的に履修してほしい。

なお、コースは慎重に選択する必要があるが、やむを得ず、選択したコースの変更を希望する場合は、1年次～3年次の3月初旬にコース変更手続き期間が設けられているので、掲示を確認し、期間内に申請すること。

コース専門科目：履修上の注意

卒業所要単位として、選択したコースからA群科目2単位を含めて合計18単位を修得しなければならない。

企業と社会コース

新しい価値を実現するための企業活動や経済・産業政策について、様々な理論と事例を通して体系的に学修していく。近年、企業を取り巻く環境は、人工知能、ロボットなどの「技術革新」、および社会イノベーション、シェアリングエコノミー、地域活性化、多文化共生社会、外国人労働者の活用といった「新しい考え方」の台頭により大きく変化している。本コースでは、複雑化するグローバル／地域の諸課題を理解し、統合的な問題解決を行うための実践知の獲得を目指す。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	企業と社会論 A	半期2単位	1～4年次	
	企業と社会論 B	半期2単位	1～4年次	
B 群	社会・イノベーション論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	中小企業論	半期2単位	2～4年次	
	地域産業論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	産業社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	国際経営論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	経済政策論	半期2単位	2～4年次	
	社会ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	広告・消費文化論	半期2単位	2～4年次	
	消費者行動論	半期2単位	2～4年次	
	金融システム論	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

サステナビリティコース

社会的に重要な政策課題、とりわけ環境と福祉の両面を視野に入れつつ、地球資源の制約のもとで、人がともに支え合うことを通じて、すべての人にとって豊かで、長期的に持続可能な社会のあり方を考える。

地球温暖化、エネルギー、食料、貧困、年金医療、マイノリティ等々の諸問題に対して、地球規模で、またコミュニティレベルで解決を図るため、社会諸科学を駆使して具体的な政策の立案・形成、また実施や評価に主体的に関与する本格的な政策マインドを養成する。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	サステナビリティ論 A	半期2単位	1～4年次	
	サステナビリティ論 B	半期2単位	1～4年次	
B 群	環境経済学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	環境政策論	半期2単位	2～4年次	
	環境自治体論	半期2単位	2～4年次	
	エネルギー論	半期2単位	2～4年次	
	気候変動論	半期2単位	2～4年次	
	福祉社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	社会保障法Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	環境社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	コミュニティ・デザイン論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	臨床社会学Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
	家族社会学Ⅱ	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

グローバル市民社会コース

グローバル化が複雑に進行する現代世界において、自分たちの手でよりよい市民社会を築いていくための知識と実践を学ぶ。とくに世界の多様性の理解、世界経済のダイナミクスの理解、市民社会を支える法・行政制度と団体活動の理解に重点を置く。

世界の多様性を理解するための文化・文明論的視野、世界経済のダイナミクスを理解するための国際経済学的視野、市民社会の構築と向上に必要な行政学、社会学的視野を複合的に学修する。複数の語学や実習的科目の履修も推奨する。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	グローバル市民社会論 A	半期2単位	1～4年次	
	グローバル市民社会論 B	半期2単位	1～4年次	
B 群	グローバル社会のローカリティ	半期2単位	2～4年次	
	市民運動論	半期2単位	2～4年次	
	地方財政論	半期2単位	2～4年次	
	地方自治論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	国際政治論	半期2単位	2～4年次	
	国際協力論	半期2単位	2～4年次	
	イスラム社会論	半期2単位	2～4年次	
	国際経済論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	国際関係論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	国際社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	国際法	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

履修モデル

図1-1には、社会政策科学科を卒業するために、各科目群からどのように単位を修得すればよいが、年次ごとの標準的なモデルを示した。履修計画を立てる際に参考にしたい。

図1-1 社会政策科学科を卒業するまで（単位修得パターンの例示）

卒業するには					その学年で修得する単位数				
合計 124 単位以上を修得									
総合科目を 30 単位 → 基礎演習・視野形成科目（B 群 4 単位含む）・情報教育基礎・保健体育科目・外国語 学科専門科目を 74 単位 → 入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目と演習 1～3 自由選択科目を最低 20 単位 → 総合科目・所属学科専門科目の修得単位のうち卒業要件単位数を超過した分は自由選択科目となる 外国語教育プログラム科目・他学科専門科目も自由選択科目となる 公開科目・グローバル教育センター設置科目・教職教科に関する科目の一部も自由選択科目となる									
学部共通					学科別カリキュラム				
ゼミ									
1 年次									
必修	Basic English 1-I・II	2 単位	基礎演習 I・II	4 単位	選択	入門科目	8 単位	4 単位を	総合科目
必修	諸外国語初級 A・B	4 単位			選択	コース専門科目 (A 群)	【※1】 6 単位	学科共通基礎科目，	学科専門科目
必修	スポーツ総合 1-I・II	2 単位			選択	コース専門科目 (A 群)		コース専門科目 (A 群) 等でプラス	プラス
選択	視野形成科目	6 単位			計	14 単位			22 単位
選択	情報教育基礎科目	4 単位			計	4 単位			14 単位
		計	18 単位						4 単位
2 年次									
必修	Basic English 2-I・II	2 単位	演習 1	4 単位	選択	学科共通基礎科目	10 単位	6 単位を	総合科目
選択	視野形成科目	4 単位			選択	コース専門科目 (A 群・B 群)	10 単位	学科専門科目，	学科専門科目
	外国語教育プログラム科目	-			選択	学科共通展開科目	4 単位	他学科の専門科目等でプラス	プラス
		計	6 単位		計	24 単位			6 単位
3 年次									
選択	視野形成科目	2 単位	演習 2	4 単位	選択	学科共通基礎科目	4 単位	14 単位を	総合科目
	外国語教育プログラム科目	-			選択	コース専門科目 (A 群・B 群)	10 単位	学科専門科目，	学科専門科目
		計	2 単位		選択	学科共通展開科目	6 単位	他学科の専門科目等でプラス	プラス
					計	20 単位			2 単位
4 年次									
	外国語教育プログラム科目	-	演習 3	8 単位		学科共通基礎科目	-	40 単位以内で	学科専門科目
						コース専門科目 (A 群・B 群)	-	学科専門科目，	学科専門科目
						学科共通展開科目	-	他学科の専門科目等をプラス	プラス
		計	8 単位		計	-			8 単位
									40 単位まで
					「プラス」の単位数が自由選択科目の単位となる 【※2】				
					総合科目 30 単位 学科専門科目 74 単位 プラス 20～64 単位				

【※1】 1 年次の秋学期に選択するコースの A 群科目が選択必修科目となる。

【※2】 外国語教育プログラムでプラスすることも可能。

図1-2～図1-3には、社会政策科学学科のカリキュラムで提供される科目によって、どのような能力が身につく、将来とどう結びつくのかをイメージしやすくするため、卒業後の進路を想定した科目履修の組み立て方を例示したので参考にしてほしい。

図1-2 履修モデル：問題解決能力をもつ企業人を目指す

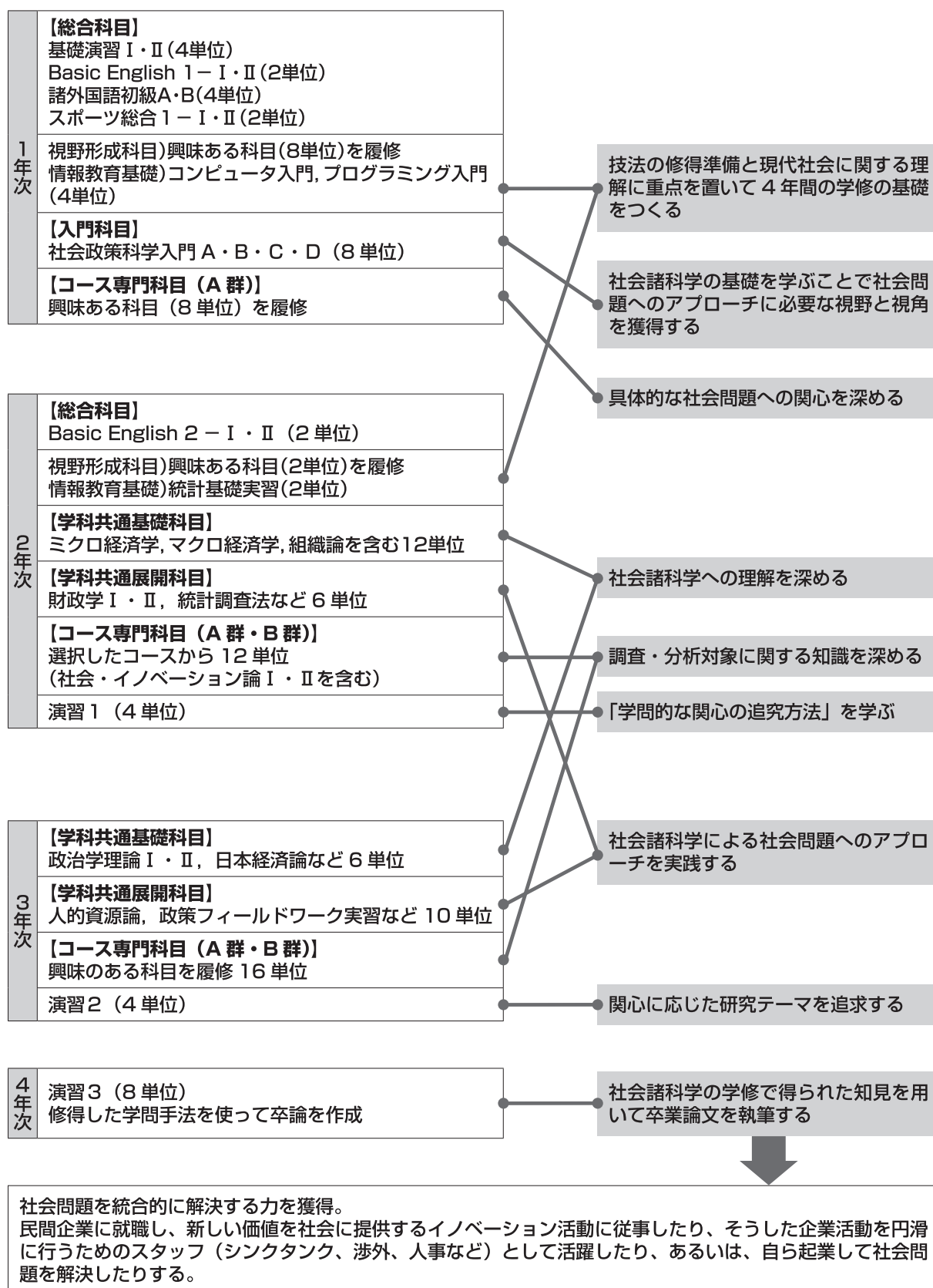
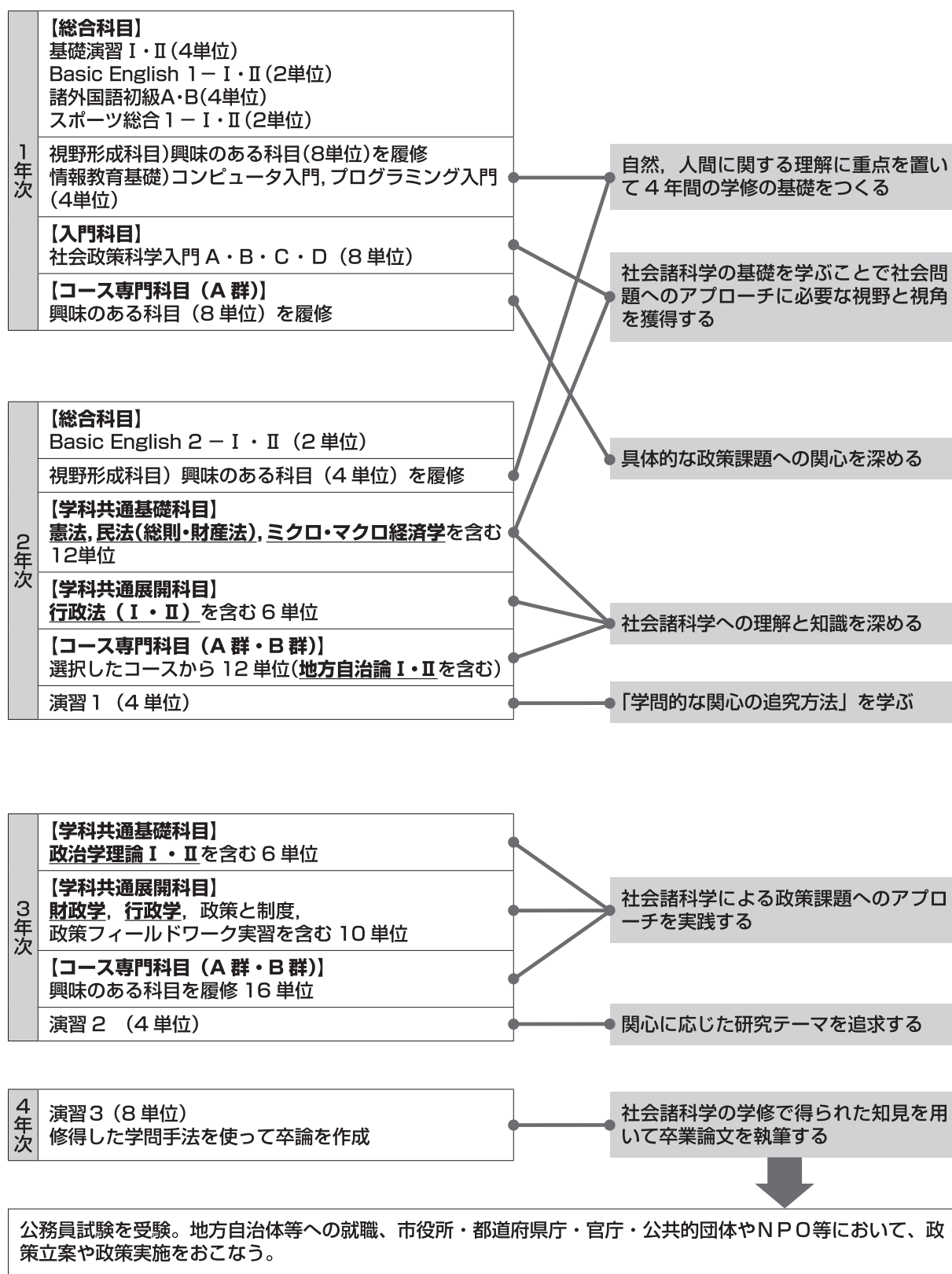


図 1-3 履修モデル：政策立案技能をもった公務員をめざす【公務員試験受験を視野に入れた学修】※



※ 公務員を目指すために、特定のコース等を選択する必要はなく、多くの社会問題に関心を持って幅広く学修してほしいが、下線を付した諸科目は、公務員試験で重要な科目となっていることが多いので、履修を強く勧める。

2 社会学科カリキュラム

教育理念と教育目的

社会学科の教育理念は、社会学の主要理論をベースに現代社会の実態を多角的に捉える知識と方法論を修得した人材を育成することである。変化し続ける社会現象の実態を複眼的に把握することを通して、社会への洞察力と批判的思考力とを培い、現代社会のあり方を広い視野から問い直していくとともに、今後の人生を主体的に生き抜く力を身につけていくことが可能となるようなカリキュラムを設置している。

社会学という学問は、社会現象に対して特有のものの見方や考え方にに基づきアプローチしていくところにその特質がある。社会学科のカリキュラムは、社会学の理論や概念を幅広く学び、そうしたものの見方や考え方に慣れ親しみながら、現代社会の成り立ちやありようを深く理解していけるよう配慮されている。また、社会学の主要な対象領域に対応した「人間・社会」・「地域・社会」・「文化・社会」・「国際・社会」の4コースを設置し、社会学の理論や方法の現実への適用を図るとともに、自らの問題関心に応じて、掘り下げた視点から考察をおこなうことができるようになっている。社会の現実を客観的にとらえ、分析するための調査技法を修得する科目も用意されているので、意欲的に履修してほしい。

ディプロマ・ポリシー（学部および学科）

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

社会学科では、学部が指定する上記の要件に加えて、以下の能力を修得した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。

1. 社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。
2. 社会調査をはじめとする経験的手法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることができる。
3. 社会学の理論と方法を通して、より良い社会と人々の生き方を構想できる。

卒業要件

表 2-1 社会学科卒業要件（「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者）

区分・科目群					卒業所要単位			
総合科目	基礎演習			選択			30 単位以上	
	視野形成科目			B 群から選択必修 4 単位以上				
	情報教育基礎			選択				
	保健体育科目	スポーツ総合 1		必修 2 単位				
		スポーツ総合 2		選択				
	外国語	Basic English 1・2		必修 4 単位（留学生以外）	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位			
		諸外国語初級 A・B		必修 4 単位（留学生以外）				
		日本語 1～3		◆留学生対象◆ 必修 6 単位				
専門科目	学科専門科目	入門科目			選択必修 6 単位以上			74 単位以上
		学科共通科目	基礎科目	A 群	選択必修 6 単位以上	選択必修 12 単位以上		
				B 群				
		展開科目			選択必修 12 単位以上			
		コース専門科目	人間・社会コース		選択必修（1つのコースを選択） 18 単位以上			
			地域・社会コース					
			文化・社会コース					
			国際・社会コース		選択			
	演習			選択				
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム			選択			
諸外国語選択科目								
自由選択科目								

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位6単位は、2年次までに単位修得しなければならない（3年次への進級要件）。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位 12 単位のうち、6 単位は A 群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12 単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の 14 単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは、第Ⅵ部の「社会調査士資格について」の項を参照のこと。

表 2-2 社会学科卒業要件（「国際・社会」コース選択者）

区分・科目群					卒業所要単位				
総合科目	基礎演習			選択			30 単位以上		
	視野形成科目			B 群から選択必修 4 単位以上					
	情報教育基礎			選択					
	保健体育科目	スポーツ総合 1			必修 2 単位				
		スポーツ総合 2			選択				
	外国語	Basic English 1・2			必修 4 単位（留学生以外）	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位			
		諸外国語初級 A・B			必修 4 単位（留学生以外）				
日本語 1～3			◆留学生対象◆ 必修 6 単位						
専門科目	学科専門科目	入門科目			選択必修 6 単位以上			62 単位以上	
		学科共通科目	基礎科目	A 群	選択必修 6 単位以上	選択必修 12 単位以上			
				B 群					
		展開科目			選択				
		コース専門科目	国際・社会コース			選択必修 18 単位以上			
			人間・社会コース			選択			
			地域・社会コース						
	文化・社会コース								
	演習			選択					
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム			選択必修（左記プログラムのうちいずれか 1 つを選択）12 単位 ※			12 単位以上	
諸外国語選択科目			選択						
自由選択科目									

※「国際・社会」コース選択者は、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得すること。

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位 6 単位は、2 年次までに単位修得しなければならない（3 年次への進級要件）。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位 12 単位のうち、6 単位は A 群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合と、「国際・社会」コースを選択した場合とでは、卒業要件が大きく異なる。「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、「学科共通展開科目」12 単位の修得が必要となるのに対して、「国際・社会」コース選択者は、「学科共通展開科目」の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12 単位修得しなければならない。
- ◆「国際・社会」コース選択者が他のコースへ、あるいは他のコース選択者が「国際・社会」コースへコースを変更する場合には、それぞれのコースで卒業要件が異なることをふまえて、慎重に判断すること。
- ◆社会学科のカリキュラムで提供される科目のうち、社団法人社会調査協会所定の 14 単位を修得することにより、「社会調査士」資格を取得できる。詳しくは、第 VI 部の「社会調査士資格について」の項を参照のこと。

入門科目

社会学科での学びの導入として、主として1年次向けに「社会学への招待」「社会学入門 A」「社会学入門 B」「社会調査入門」の4つの科目を設置している。「社会学への招待」は、社会学科の教員によるオムニバス形式の科目で、各教員の専門分野にかかわるホットなテーマに触れながら、社会学という学問の輪郭をつかむ。「社会学入門 A」「社会学入門 B」は、2人の教員が連携して担当する科目で、様々な社会学の基本概念を学ぶことを通して、理論的な思考力を培うための基礎的な土壌を醸成する。「社会調査入門」では、社会学で用いられる社会調査という手法の基本的な考え方を学ぶ。

授業科目	単位数	履修年次	備考
社会学への招待	半期2単位	1～4年次	
社会学入門 A	半期2単位	1～4年次	
社会学入門 B	半期2単位	1～4年次	
社会調査入門	半期2単位	1～4年次	

入門科目：履修上の注意

入門科目6単位の修得が、3年次への進級要件である。2年次までに所要単位の修得を終えるよう計画すること。ただし、1年次のうちに4科目すべて（8単位分）修得しておくことが望ましい。

学科共通基礎科目

様々な社会現象を認識・把握するための理論的な思考力と方法論的な素養を醸成する科目群である。A 群は、社会学の理論と方法にかかわる科目によって構成されている。そのうち理論科目では、今日まで社会学が蓄積してきた豊穡な諸理論をミクロ・マクロ両面から修得し、社会を洞察する視角を多面的に学ぶ。方法科目では、社会調査のより具体的な技法を修得するとともに、多様なデータを読み解くリテラシー能力を涵養する。B 群は、社会学と密接に関連した隣接学問領域の科目によって構成されている。政治学やメディア社会学などの科目の修得を通して、幅広い社会科学的な視座の獲得を目指す。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	社会学理論 A I ・ A II	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
	社会学理論 B I ・ B II	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
	社会調査の方法	半期 2 単位	1 ～ 4 年次	
	社会調査のリテラシー	半期 2 単位	1 ～ 4 年次	
B 群	政治学理論 I ・ II	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
	組織論	半期 2 単位	2 ～ 4 年次	
	メディア社会学基礎 A	半期 2 単位	2 ～ 4 年次	
	メディア社会学基礎 B	半期 2 単位	2 ～ 4 年次	
	メディア社会学基礎 C	半期 2 単位	2 ～ 4 年次	
	特殊講義	半期 2 単位		

学科共通基礎科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通基礎科目 12 単位を修得しなければならない。ただし、そのうち 6 単位は、A 群の科目から修得しなければならない。なお、A 群の方法科目である「社会調査の方法」と「社会調査のリテラシー」は、1 年次のうちに修得しておくことが望ましい。

学科共通展開科目

学科共通基礎科目で身につけた知識と素養の上に立って、社会学の理論と方法に関するより深い理解へと到達することが目指されている科目群である。アドバンスドな社会学の理論や方法を学ぶ講義科目のほか、「原典講読」、「社会学総合特講 A・B」、「外書講読（社会学）」といった少人数の受講者を想定した科目も用意されており、これらの科目の履修を通して焦点化されたテーマを掘り下げて学んでいく。また、アンケート調査や聞き取り調査といった社会調査を実際に試みる実習科目も置かれており、調査の設計から報告書の作成に至る一連の過程を経験することを通して、社会調査の醍醐味を体感することができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
理論社会学	半期2単位	2～4年次	
社会学史Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
歴史社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
数理社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
原典講読	半期2単位	2～4年次	
社会学総合特講 A	半期2単位	2～4年次	
社会学総合特講 B	半期2単位	2～4年次	
統計調査法	半期2単位	2～4年次	
社会調査実習	通年4単位	2～4年次	
調査研究法 A	半期2単位	2～4年次	
調査研究法 B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）1 A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）1 B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）2 A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）2 B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）3 A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（社会学）3 B	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通展開科目：履修上の注意

「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者は、卒業所要単位として学科共通展開科目12単位を修得しなければならない。「国際・社会」コース選択者は、本科目群の単位修得が免除されるかわりに、「外国語教育プログラム」に置かれた、Advanced English Program・ドイツ語中級プログラム・フランス語中級プログラム・中国語中級プログラムのうちいずれかひとつを選択し、12単位を修得しなければならない。

コース専門科目

社会学科のカリキュラムには、社会学の主要な対象領域に対応した「人間・社会」・「地域・社会」・「文化・社会」・「国際・社会」の4コースが設置されている。学科共通基礎科目や学科共通展開科目の履修と並行しながら、コース専門科目を履修することによって、社会学の理論や方法の現実への適用について学ぶとともに、各自の問題関心を深く掘り下げていくことができる。

コースの選択は、2年次以降の社会学科での「学び」をどのようなものとするかに大きく関わる。また、途中で安易にコースを変更すると計画的な履修の障害となり卒業が難しくなるので、コースは慎重に選択しなければならない。各コースには、1年次から履修できる科目がそれぞれ2科目ずつ置かれている。それらの科目は各コースで学ぶことのできる対象領域に関する概論的な内容にもなっているので、1年次のうちにさまざまなコース専門科目を横断的に履修することで各コースのイメージをつかみ、理解を深めるとともに、コースを選択する際の参考にしてほしい。

社会学科のコース選択は、1年次秋学期に社会学部へ提出する「コース選択希望登録票」に基づきおこなわれる。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、入門科目の「社会学入門A」ならびに「社会学入門B」の授業内でコース選択のためのガイダンスを実施するので、必ず出席すること。

なお、やむを得ず、選択したコースの変更を希望する場合は、1年次～3年次の3月初旬にコース変更手続き期間が設けられているので、掲示を確認し、期間内に申請すること。

コース専門科目：履修上の注意

卒業所要単位として、選択したコースから18単位を修得しなければならない。なお、1年次に修得したコース専門科目のうち、各自の選択したコースに置かれた科目の修得単位については、この18単位に含めることができる。

人間・社会コース

現代社会における人の生き方や生活のありようを、発達と教育、ライフコースと家族、ジェンダーとアイデンティティ、エイジングと高齢社会などの主題を通して深く探求する。それを通して、個々人の置かれた社会環境や文化環境と心理や行為との相互関係を理解し、人間と社会のリアルな関係に真摯に向き合いながら、多様な諸個人よりなる、誰もが排除されない共生社会への道を模索する。

授業科目	単位数	履修年次	備考
人間・社会論	半期2単位	1～4年次	
ジェンダー論	半期2単位	1～4年次	
発達・教育の理論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
家族社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
臨床社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
社会心理学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
エイジングの社会学	半期2単位	2～4年次	
社会教育概論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

地域・社会コース

まちづくり、地球環境問題、都市デザイン、農業の再生、福祉社会の再構築、新しい働き方などの今日的主題を自由に横断しながら、変容する現代社会において地域コミュニティがどのような役割を果たすべきか、その具体的な道筋を探究する。それを通して、住民参加型社会の促進、行政との協働、NPO やボランティアの充実化を見据え、これからの時代に求められる地域コミュニティをデザインする実践的な力を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
コミュニティ・デザイン論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	
グローバル社会のローカリティ	半期2単位	2～4年次	
市民運動論	半期2単位	2～4年次	
環境社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
現代農業・農村の社会学	半期2単位	2～4年次	
地域環境論	半期2単位	2～4年次	
都市空間とデザインⅠ	半期2単位	2～4年次	
福祉社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
産業社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

文化・社会コース

日々の社会生活を形作るさまざまな実践や、メディア空間の中に生み出されていく表象やイメージを「文化」という視点においてとらえ、私たちの生きている世界が「意味」に充ちた現実として生成していく過程を明らかにしていく。社会学、文化人類学、表象文化論、コミュニケーション論などの観点から、宗教やスポーツ、文学や芸術、広告やジャーナリズムといった多様な対象にアプローチし、現代社会のリアリティを鋭く、奥深く読み解く力を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
文化社会学A	半期2単位	1～4年次	
文化社会学B	半期2単位	2～4年次	
表象文化論A	半期2単位	1～4年次	
表象文化論B	半期2単位	2～4年次	
文化人類学	半期2単位	2～4年次	
宗教社会学	半期2単位	2～4年次	
スポーツ文化論	半期2単位	2～4年次	
メディア文化論	半期2単位	2～4年次	
メディアの歴史	半期2単位	2～4年次	
メディアの思想	半期2単位	2～4年次	
社会問題とメディア	半期2単位	2～4年次	
広告・消費文化論	半期2単位	2～4年次	
ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

国際・社会コース

グローバル化が進む現代において、私たちは国際社会についてどう考えていくべきか、人の移動、移民や難民、国民国家とナショナリティ、人種と民族・エスニシティ、国際関係、開発と国際協力、人間の安全保障など、国際社会をめぐる多様な主題を通して、国際社会学や地域研究などの視角から探究する。その際、国際社会との関わり方や国際社会における日本のあり方も含めて考察することにくわえて、母語以外の言語とその文化に親しむことで国際的な視野と感受性を養う。

授業科目	単位数	履修年次	備考
国際社会と日本	半期2単位	1～4年次	
国際社会と言語文化	半期2単位	1～4年次	
国際社会学Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
国際関係論Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
国際社会と民族	半期2単位	2～4年次	
開発とジェンダー	半期2単位	2～4年次	
国際協力論	半期2単位	2～4年次	
イスラム社会論	半期2単位	2～4年次	
地域研究（ヨーロッパ）	半期2単位	2～4年次	
地域研究（アジア）	半期2単位	2～4年次	
地域研究（中国）	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

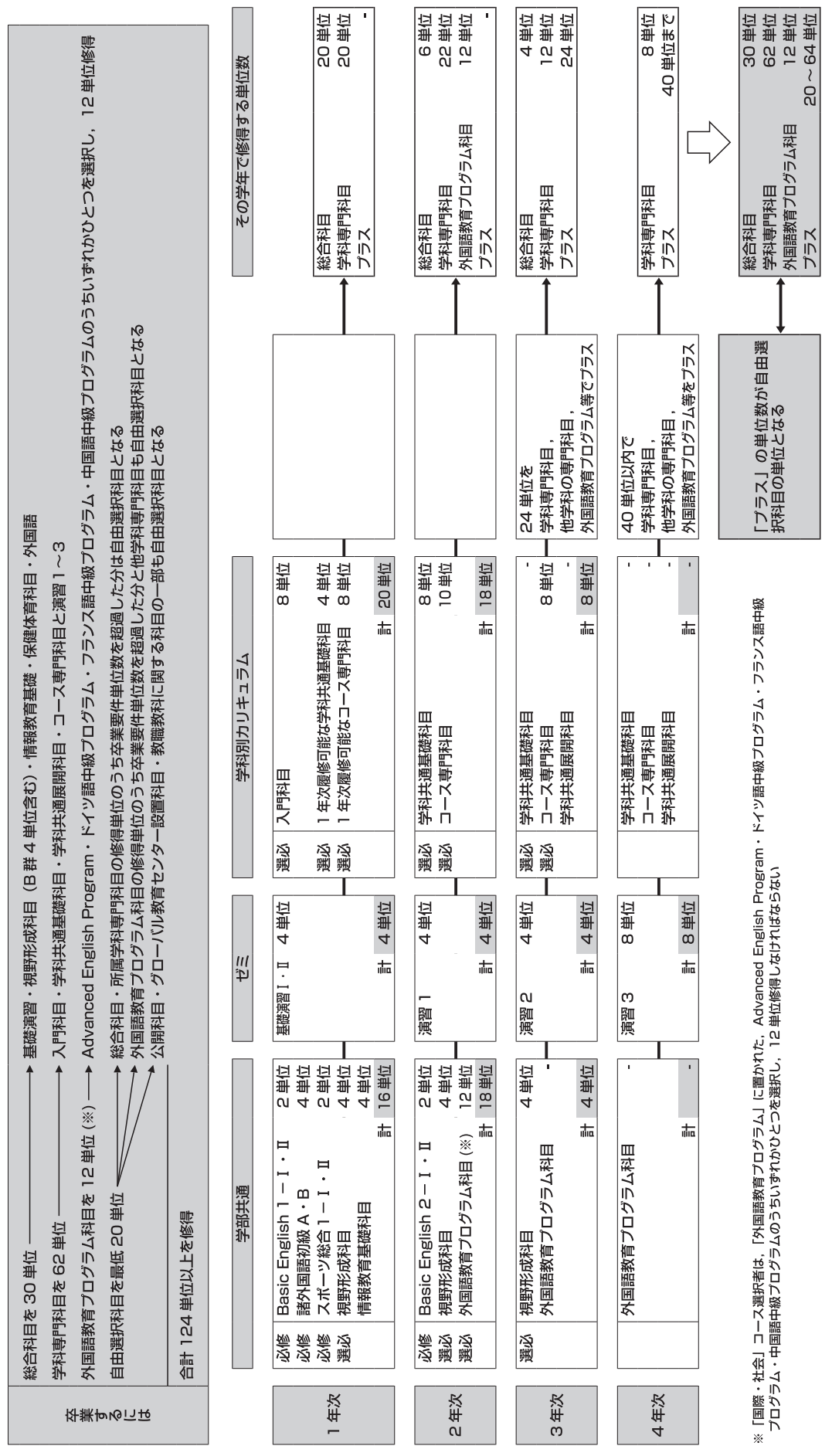
履修モデル

図2-1 「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コース選択者）・図2-2 「国際・社会」コース選択者）には、社会科学を卒業するために、各科目群からどのように単位を修得すればよいか、年次ごとの標準的なモデルを示した。履修計画を立てる際に参考にしたい。

図2-1 社会科学を卒業するまで（「人間・社会」「地域・社会」「文化・社会」各コースを選択した場合）

卒業するには	総合科目を 30 単位 → 基礎演習・視野形成科目 (B 群 4 単位含む)・情報教育基礎・保健体育科目・外国語 学科専門科目を 74 単位 → 入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目と演習 1～3 自由選択科目を最低 20 単位 → 総合科目・所属学科専門科目の修得単位のうち卒業要件単位数を超過した分は自由選択科目となる → 外国語教育プログラム科目・他学科専門科目も自由選択科目となる → 公開科目・グローバル教育センター設置科目・教職教科に関する科目の一部も自由選択科目となる										合計 124 単位以上を修得	
	その学年で修得する単位数											
	学科別カリキュラム											
	ゼミ											
	学部共通											
1 年次	必修 必修 必修 選必修	Basic English 1-I・II 諸外国語初級 A・B スポーツ総合 1-I・II 視野形成科目 情報教育基礎科目	2 単位 4 単位 2 単位 4 単位 4 単位 計 16 単位	基礎演習 I・II 入門科目 選必修 選必修 選必修 計 4 単位	4 単位 8 単位 4 単位 8 単位 計 20 単位	総合科目 学科専門科目 プラス	20 単位 20 単位 -					
2 年次	必修 選必修	Basic English 2-I・II 視野形成科目 外国語教育プログラム科目	2 単位 4 単位 - 計 6 単位	演習 1 選必修 選必修 選必修 計 4 単位	8 単位 10 単位 4 単位 22 単位 計 22 単位	総合科目 学科専門科目 プラス	6 単位 26 単位 8 単位					
3 年次	選必修	視野形成科目 外国語教育プログラム科目	4 単位 - 計 4 単位	演習 2 選必修 選必修 選必修 計 4 単位	- 8 単位 8 単位 16 単位 計 16 単位	総合科目 学科専門科目 プラス	4 単位 20 単位 16 単位					
4 年次		外国語教育プログラム科目	- 計 -	演習 3 計 8 単位	- 計 -	学科専門科目 プラス	8 単位 40 単位まで					
「プラス」の単位数が自由選択科目の単位となる							30 単位 74 単位 20～64 単位					

図2-2 社会学科を卒業するまで（「国際・社会」コースを選択した場合）



履修計画を立てるにあたり、社会学科の提供するカリキュラムを通してどのような能力を身につけ、それを将来の自分の姿とどのように結びつけていくかをイメージしてみることも重要である。図2-3～図2-5に、卒業後の進路を想定した科目履修の組み立て方を例示したので参考にしてほしい。

図2-3 履修モデル：社会調査士資格の取得を生かした進路を目指す

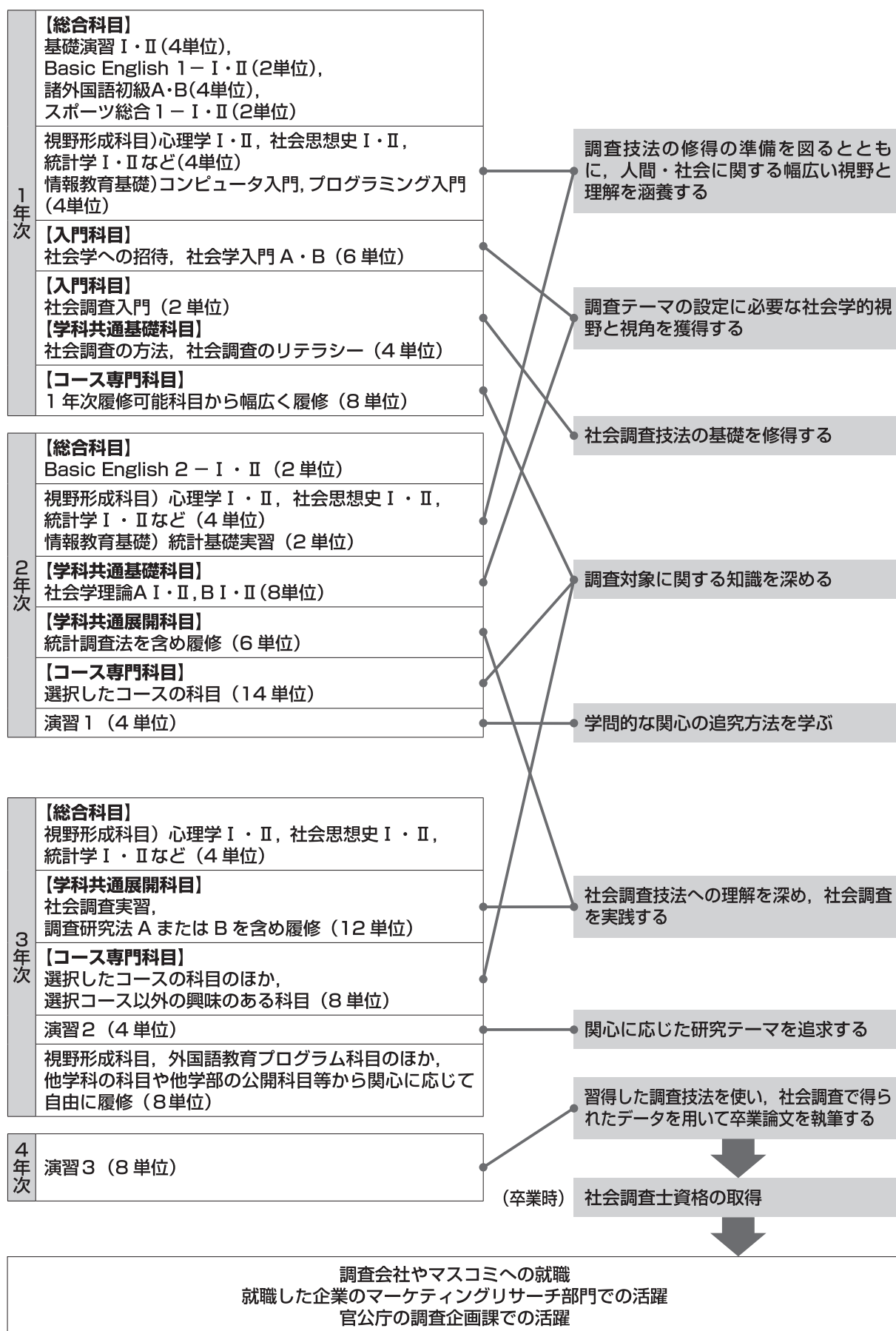


図2-4 履修モデル：社会学系大学院への進学を目指す

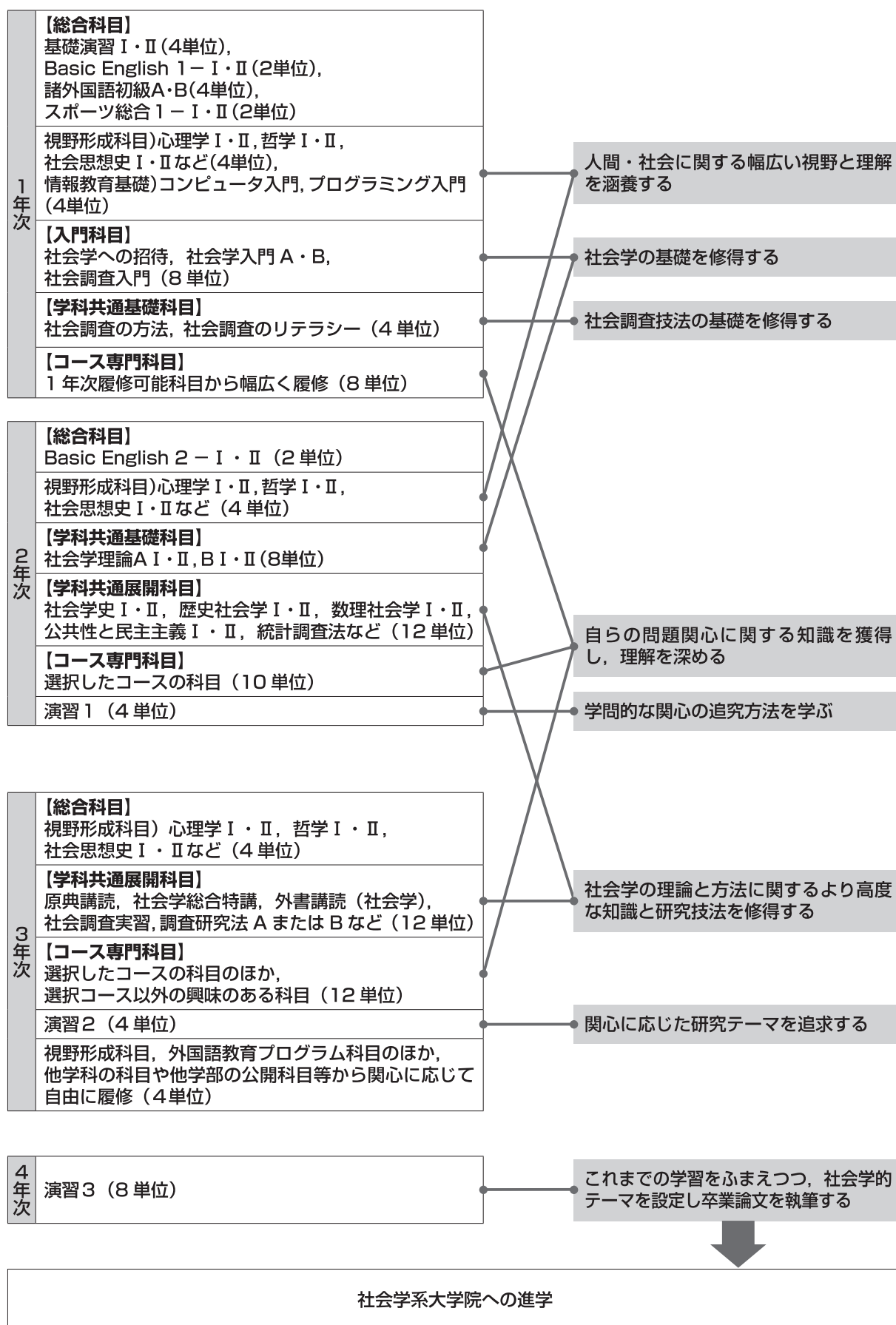
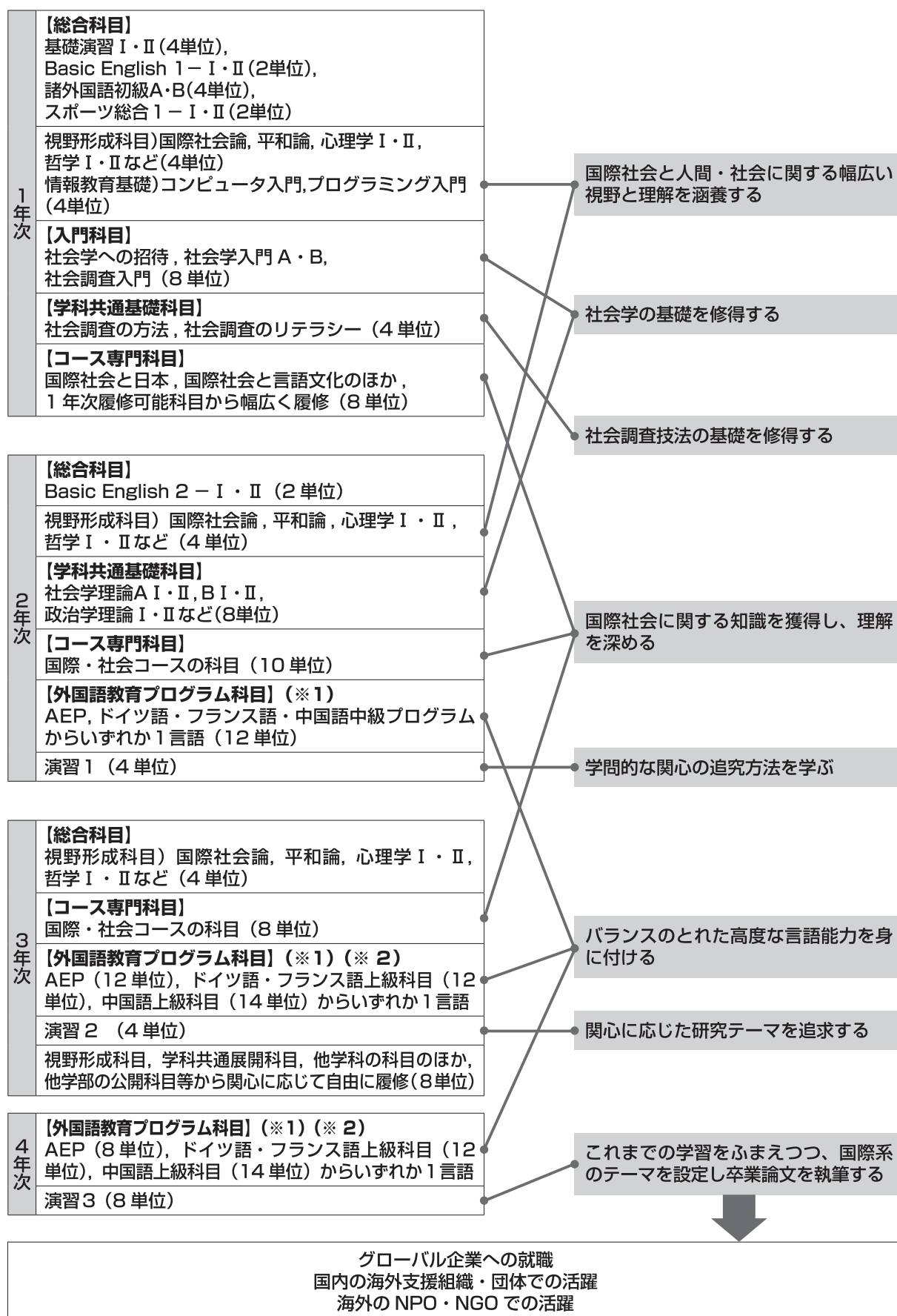


図2-5 国際的な舞台での活躍を目指す



(※1) 在学中に、SAプログラム(英・中)や休暇期間を利用した社会学部独自の外国語研修機関への留学プログラム(独・仏)への参加のほか、本学の派遣留学制度等を利用した海外留学に挑戦してみてもよいだろう。詳細は、第V部「海外で勉強するために」を参照のこと。

(※2) 語学の学習は継続性が肝要である。3・4年次に、英語選択者は2年次未履修のAEP科目、ドイツ語・フランス語・中国語選択者はそれぞれの言語の上級科目を、卒業所要単位にかかわらず、できるだけ多く履修することを推奨する。また、主に学習している言語のほか、スペイン語・ロシア語・朝鮮語といった言語(Ⅱ群言語)を含め他の言語に挑戦してみてもよいだろう。

教育理念と教育目的

メディア社会学科の教育理念は、メディア環境の変化に広い視野で即応できる多角的思考と先見性をもった人材を育成することである。このために、インターネットの普及やデジタル化の進展に伴うメディア・コンテンツの変容や、新たなコミュニケーション形態の出現など、様々な現象を理解するための理論や研究方法と、新たなメディア環境の構築に参加するための技法を体系的に習得するためのカリキュラムを設置している。

メディア社会学科では、メディア現象とメディア環境に対するアプローチを表現・分析・設計の3つに分け、対応するコースをカリキュラムに設置している。各コースは、それぞれのアプローチに依拠して研究や技術の実践を行うための科目のまとまり（モジュール）によって構成されている。モジュールは、対象領域に関する理論・技法・実践に対応する3科目でそれぞれ構成されており、体系的に理解を深めることができる。メディア社会学科カリキュラムの全体を通して、技法を実践する能力を修得するための実習科目が多く設置されているので、意欲的に取り組んでほしい。

ディプロマ・ポリシー（学部および学科）

社会学部では「学士（社会学）」の授与に際して、所定の単位の修得と、学部および学科が定める能力の修得を要求している。学科にかかわらず要求されるのは以下の能力である。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

メディア社会学科では、学部が指定する上記の要件に加えて、以下の能力を修得した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。

1. メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。
2. メディアと社会の関係を、メディア研究の手法によって分析できる。
3. 最新のメディア技術を利用して、社会的諸課題の解決に寄与するメディアの表現と設計ができる。

卒業要件

表 3-1 メディア社会学科卒業要件

区分・科目群					卒業所要単位		
総合科目	基礎演習			選択		30 単位以上	
	視野形成科目			B 群から選択必修 4 単位以上			
	情報教育基礎			選択			
	保健体育科目	スポーツ総合 1		必修 2 単位			
		スポーツ総合 2		選択			
	外国語	Basic English 1・2		必修 4 単位（留学生以外）	◆留学生の場合◆ 選択必修 2 単位		
		諸外国語初級 A・B		必修 4 単位（留学生以外）			
		日本語 1～3		◆留学生対象◆ 必修 6 単位			
専門科目	学科専門科目	入門科目			選択必修 6 単位以上		74 単位以上
		学科共通科目	基礎科目	A 群	選択必修 4 単位以上	選択必修 12 単位以上	
				B 群			
		展開科目		選択			
		コース専門科目	メディア表現コース		選択必修（1つのコースを選択） 18 単位以上		
			メディア分析コース				
			メディア設計コース				
	演習			選択			
	外国語教育プログラム	Advanced English Program ドイツ語中級プログラム フランス語中級プログラム 中国語中級プログラム			選択		
		諸外国語選択科目					
自由選択科目							

注意しよう！

- ◆「入門科目」の卒業所要単位 6 単位は、2 年次までに単位修得しなければならない（3 年次への進級要件）。
- ◆「学科共通基礎科目」の卒業所要単位 12 単位のうち、4 単位は A 群の科目から単位修得しなければならない。
- ◆コース選択について
実習的な性格を持った「実践」科目の履修機会を保证するため、メディア社会学科カリキュラムに設置されたコースには収容上限（各コースメディア社会学科 1 年次在籍者の 40%）が設けられている。上限を超えたコースでは、1 年次 GPA による選抜を実施する。
1 年次秋学期に社会学部事務課へ提出する「コース選択希望登録票」によって、希望コースを登録する。「コース選択希望登録票」の提出に先立ち、「入門科目」等でコース選択のためのガイダンスを行うので、授業での案内や掲示に十分注意すること。なお、メディア社会学科では、原則としてコース変更を認めていない。
- ◆コース専門科目のモジュールについて
選択したコースの専門科目のうち「理論」「技法」科目を 2 年次以降に履修し、3 年次以降には選択したコースの「実践」科目を履修する。卒業のためには、選択したコースの専門科目から 18 単位（9 科目）以上の修得が必要となるので注意すること。
- ◆「実践」科目
コース専門科目の「実践」科目は、少人数による教育を前提としているので、履修登録に先立ち、クラスサイズを適正化するための調整を実施することがある。調整の実施時期は、2 年次の成績発表から授業開始時までの間に設定し、掲示などにより告知する。具体的な調整方法についても、掲示などで告知するので十分に注意すること。

入門科目

メディア研究を行うにあたり、基礎となるスキルを身につけるための科目群として「メディア研究法入門」と「メディア社会入門」を配置している。「メディア研究法入門」では、メディアを対象とした調査を行う際に必要となる質的調査、量的調査手法の基礎を学ぶ。「メディア社会入門」では、メディアに関する基礎理論とメディアによって社会課題を解決する「実践知」の基礎的な考えを学ぶ。

授業科目	単位数	履修年次	備考
メディア研究法入門 A	半期2単位	1～4年次	
メディア研究法入門 B	半期2単位	1～4年次	
メディア社会入門Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	

入門科目：履修上の注意

入門科目6単位の修得が、3年次への進級要件である。2年次までに所要単位の修得を終えるよう計画すること。ただし、1年次のうちに4科目すべて（8単位分）修得しておくことが望ましい。

学科共通基礎科目

メディア研究を行うにあたり、理論的・方法的な基礎を身につけるための科目群として、A 群と B 群を配置している。A 群では、技術、文化、法制度の3つの観点からメディアと社会の関係を総合的に理解することを目指す。B 群では、社会学の基礎となる理論、憲法、ミクロ・マクロ経済学を配置し、メディア研究を支える多角的思考と先見性を学ぶ。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
A 群	メディア社会学基礎 A	半期2単位	1～4年次	
	メディア社会学基礎 B	半期2単位	1～4年次	
	メディア社会学基礎 C	半期2単位	1～4年次	
	メディアと人間Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	1～4年次	
B 群	社会学理論 AⅠ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	社会学理論 BⅠ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
	憲法	半期2単位	2～4年次	
	ミクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
	マクロ経済学	半期2単位	2～4年次	
	特殊講義	半期2単位		

学科共通基礎科目：履修上の注意

卒業所要単位として学科共通基礎科目 12 単位を修得しなければならない。ただし、そのうち 4 単位は、A 群の科目から修得しなければならない。

学科共通展開科目

メディア研究を行うために必要な理論や方法論に関する理解をさらに深めるための科目群である。インターネットの普及やデジタル化の進展に伴うメディアコンテンツの変容や、新たなコミュニケーション形態の出現など、様々な現象を理解するために、メディアの思想や法、知的財産権、社会問題、認知科学、公共性と民主主義などのテーマを学ぶ。また、新たなメディア環境の構築に参加するための技法を体系的に習得するために必要となる多様なプログラミング関連の実習、クリエイティブ・ライティング、外書講読といった科目を設置している。

授業科目	単位数	履修年次	備考
メディアの思想	半期2単位	2～4年次	
クリエイティブ・ライティング	半期2単位	2～4年次	
社会問題とメディア	半期2単位	2～4年次	
認知科学	半期2単位	2～4年次	
知的財産権法	半期2単位	2～4年次	
メディア法	半期2単位	2～4年次	
公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ	半期各2単位	2～4年次	
プログラミングと論理的思考	半期2単位	2～4年次	
ウェブ・プログラミングA	半期2単位	2～4年次	
ウェブ・プログラミングB	半期2単位	2～4年次	
システム・プログラミングA	半期2単位	2～4年次	
システム・プログラミングB	半期2単位	2～4年次	
メディアプログラミング実習	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）1A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）1B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）2A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）2B	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）3A	半期2単位	2～4年次	
外書講読（メディア社会学）3B	半期2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

学科共通展開科目：履修上の注意

卒業所要単位として修得しなければならない学科専門科目 74 単位のうち 16 単位は、学科共通展開科目から履修することが望ましい。

コース専門科目

メディア社会学科では、同じ領域に関する「理論」「技法」「実践」の組合せを「モジュール」と呼んでいる。ひとつのモジュールは、2年次以降に履修する「理論」「技法」、3年次以降に履修する「実践」を原則として一人の専任教員が担当し、一貫した専門知識を学ぶことができるような科目のまとまりとなっている。メディア社会学科の学生は、ひとつ以上の「モジュール」を順次履修し完成していくことが望まれる。

コース専門科目：履修上の注意

卒業所要単位として、選択したコースから18単位を修得しなければならない。

メディア表現コース

「理論」科目群において映像文化、広告・PR、映像認知、ジャーナリズムの各領域を理解するための理論を学んだ後に、「技法」科目群でそれぞれの領域に関連したコンテンツを制作するために必要な技法を身につける。さらに、「実践」科目群では、上記科目群で学んだ理論と技法をベースにしながら実際にコンテンツを制作し、学生が各領域での表現を行うことができるようにする。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
理論	メディア文化論	半期2単位	2～4年次	
技法	映像制作技法	半期2単位	2～4年次	
実践	映像制作実習	半期2単位	3～4年次	
理論	広告・消費文化論	半期2単位	2～4年次	
技法	広告・PR論	半期2単位	2～4年次	
実践	広告制作実習	半期2単位	3～4年次	
理論	情報科学とコミュニケーション	半期2単位	2～4年次	
技法	認知映像論	半期2単位	2～4年次	
実践	物語シミュレーション	半期2単位	3～4年次	
理論	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
技法	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ	半期2単位	2～4年次	
実践	ニュース・ライティング	半期2単位	3～4年次	
	メディア社会学特講（表現）	半期2単位	4年次	
	特殊講義	半期2単位		

メディア分析コース

「理論」科目群では、消費者行動、都市空間とデザイン、メディアの歴史、メディアコンテンツといった研究対象の分析を支える理論を学ぶ。「技法」科目群は、それぞれの領域の研究対象を分析するために必要な技法を身につけることを目的としている。「実践」科目群では、理論と技法をベースにしながら実際に各領域でデータ収集と分析に取り組み、調査成果をまとめ上げることを目指す。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
理論	消費者行動論	半期2単位	2～4年次	
技法	消費者行動モデリング	半期2単位	2～4年次	
実践	マーケティング実践	半期2単位	3～4年次	
理論	都市空間とデザインⅠ	半期2単位	2～4年次	
技法	都市空間とデザインⅡ	半期2単位	2～4年次	
実践	都市空間分析	半期2単位	3～4年次	
理論	メディアの歴史	半期2単位	2～4年次	
技法	メディア分析技法	半期2単位	2～4年次	
実践	メディア分析実践	半期2単位	3～4年次	
理論	マス・コミュニケーション論	半期2単位	2～4年次	
技法	メディアコンテンツ論	半期2単位	2～4年次	
実践	メディアコンテンツ分析	半期2単位	3～4年次	
	メディア社会学特講（分析）	半期2単位	4年次	
	特殊講義	半期2単位		

メディア設計コース

「理論」科目群では、メディアテクノロジーと社会、社会ネットワーク、デジタル情報環境、ソーシャルメディアに関する理論を学ぶ。「技法」科目群では、それぞれの研究対象を社会に実装していくために必要な知を身につける。「実践」科目群では、それまで学んだ理論と技法をもとに、メディアを主軸に置きながら新しい社会の仕組みを設計していくことはどのように可能なのかを実践を通して学んでいく。

	授業科目	単位数	履修年次	備考
理論	メディアテクノロジーと社会	半期2単位	2～4年次	
技法	メディアテクノロジーと社会分析	半期2単位	2～4年次	
実践	メディアテクノロジーと社会実習	半期2単位	3～4年次	
理論	社会ネットワーク論Ⅰ	半期2単位	2～4年次	
技法	社会ネットワーク論Ⅱ	半期2単位	2～4年次	
実践	意思決定論	半期2単位	3～4年次	
理論	デジタル情報環境論	半期2単位	2～4年次	
技法	デジタル情報環境分析	半期2単位	2～4年次	
実践	デジタル情報環境実習	半期2単位	3～4年次	
理論	ソーシャルメディア論	半期2単位	2～4年次	
技法	ソーシャルメディア分析	半期2単位	2～4年次	
実践	ソーシャルメディア実習	半期2単位	3～4年次	
	メディア社会学特講（設計）	半期2単位	4年次	
	特殊講義	半期2単位		

履修モデル

図3-1には、メディア社会科学を卒業するために、各科目群からどのように単位を修得すればよいかを例示した。履修計画を立てる際に参考にしたい。

図3-1 メディア社会科学を卒業するまで（単位修得パターンの例示）

卒業するには					学部共通					ゼミ					学科別カリキュラム					その学年で修得する単位数				
総合科目を30単位					基礎演習・視野形成科目（B群4単位含む）・情報教育基礎・保健体育科目・外国語					入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目と演習1～3					総合科目・所属学科専門科目の修得単位のうち卒業要件単位数を超過した分は自由選択科目となる					外国語教育プログラム科目・他学科専門科目も自由選択科目となる				
自由選択科目を最低20単位					公開科目・グローバル教育センター設置科目・教職教科に関する科目の一部も自由選択科目となる					合計124単位以上を修得														
卒業するには					必修 Basic English 1-I・II 2単位 必修 諸外国語初級 A・B 4単位 必修 スポーツ総合 1-I・II 2単位 必修 視野形成科目 10単位 必修 情報教育基礎科目 4単位 計 22単位					基礎演習 I・II 4単位 計 4単位					選択 入門科目 8単位 選択 1年次履修可能な学科共通基礎科目 6単位 計 14単位					総合科目 26単位 学科専門科目 14単位				
1年次					必修 Basic English 2-I・II 2単位 必修 情報教育基礎科目 2単位 必修 外国語教育プログラム科目 - 計 4単位					演習 1 4単位 計 4単位					選択 学科共通基礎科目 8単位 選択 コース専門科目 16単位 選択 学科共通展開科目 2単位 計 26単位					6単位を 学科共通展開科目、 情報教育基礎科目、 外国語教育プログラム等でプラス				
2年次					必修 Basic English 2-I・II 2単位 必修 情報教育基礎科目 2単位 必修 外国語教育プログラム科目 - 計 4単位					演習 2 4単位 計 4単位					選択 コース専門科目 4単位 選択 学科共通展開科目 / 他コース理論科目 14単位 計 18単位					18単位を 学科専門科目、 外国語教育プログラム、 他学科の専門科目等でプラス				
3年次					外国語教育プログラム科目 - 計 -					演習 3 8単位 計 8単位					選択 学科共通基礎科目 - 選択 コース専門科目 - 選択 学科共通展開科目 - 計 -					40単位以内で 学科専門科目、 外国語教育プログラム、 他学科の専門科目等をプラス				
4年次					外国語教育プログラム科目 - 計 -					計 -					計 -					8単位 学科専門科目 プラス 40単位まで				
																				総合科目 30単位 学科専門科目 74単位 プラス 20～64単位				

図3-2～図3-4には、メディア社会学科カリキュラムで提供される科目によってどのような能力が身につく、将来とどう結びつくのかをイメージしやすくするため、「卒業後のキャリア」と科目履修との典型的な結びつきを例示してある。卒業後をイメージして履修しよう。

図3-2 履修モデル：メディア制作者を目指す

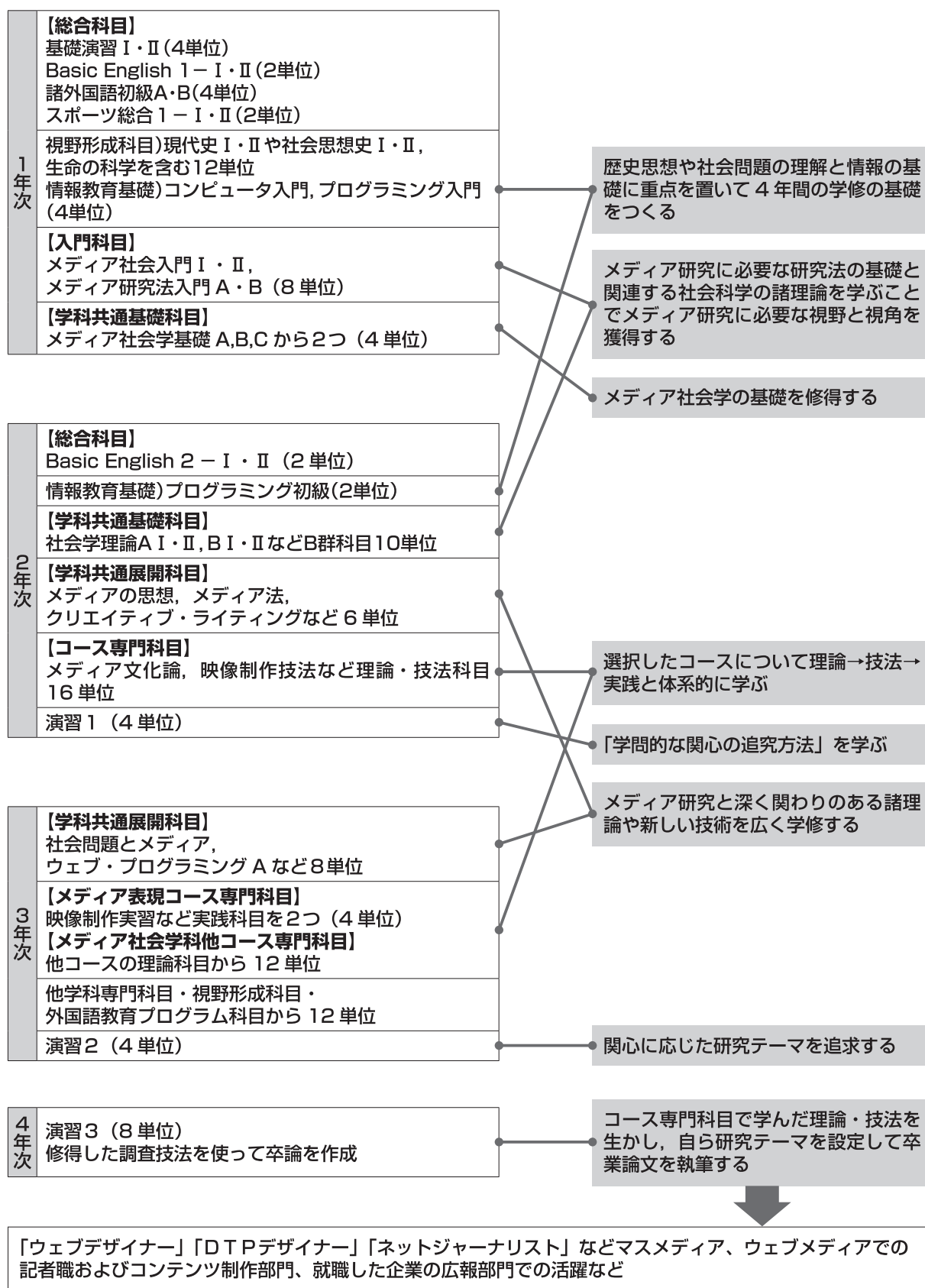


図3-3 履修モデル：メディアのデータサイエンティストを目指す

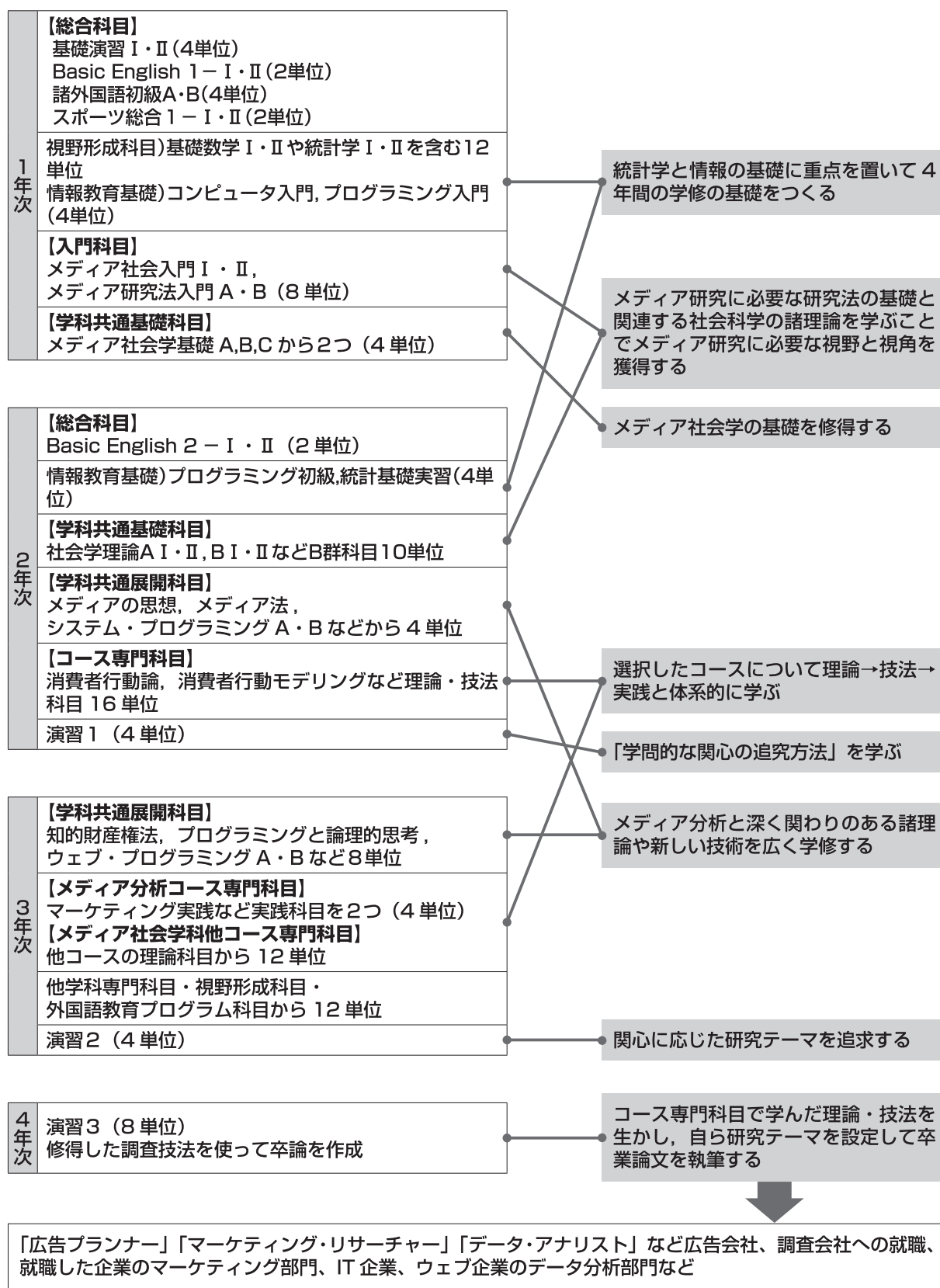
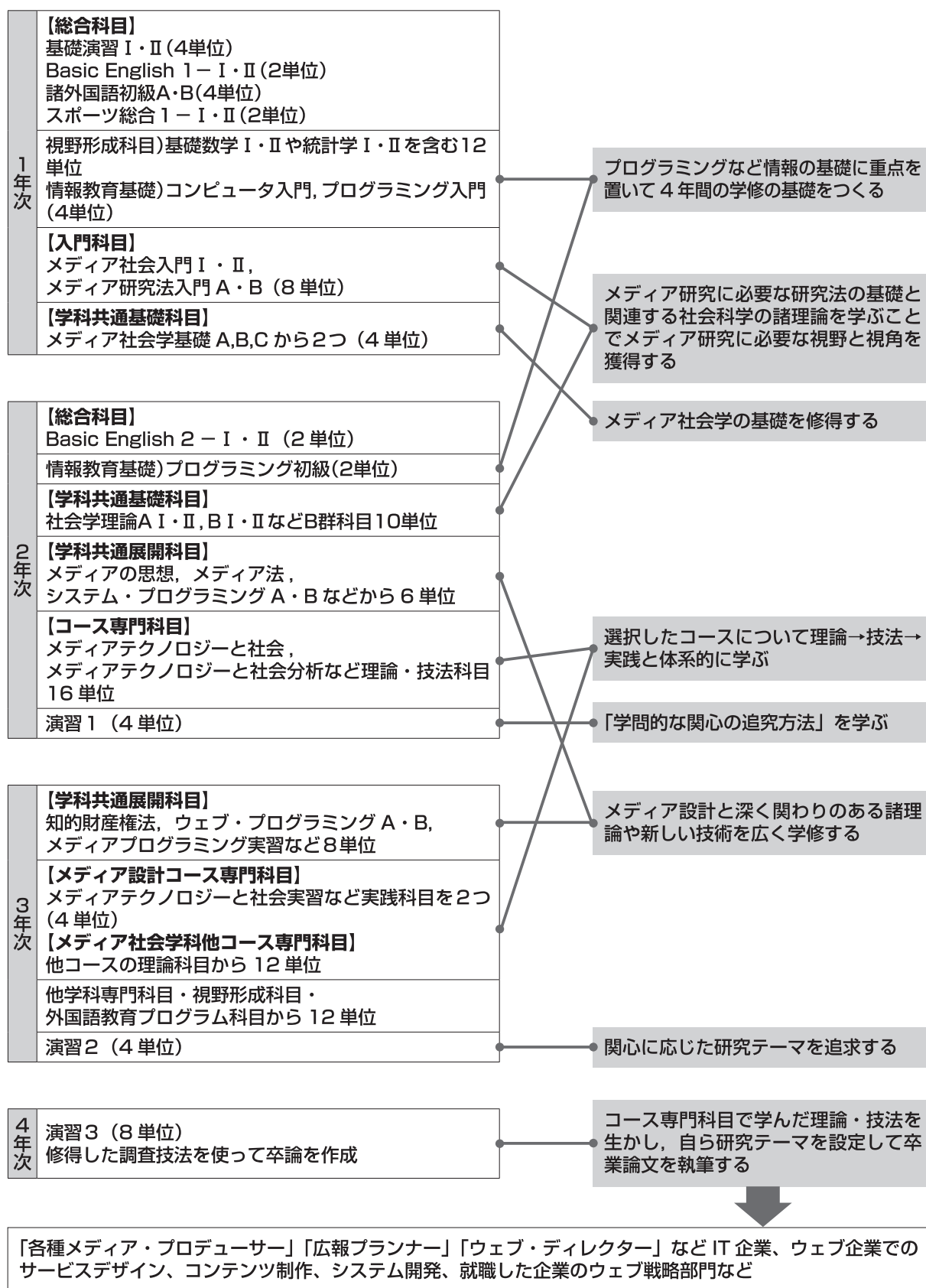


図3-4 履修モデル：ウェブの開発者を目指す



基本文献一覧

各学科で定められた基本文献の一覧である。新書など比較的読みやすいものが多いので、所属学科や希望するコースで挙げられた文献はもちろんのこと、関心に応じてそれ以外の文献にも積極的に挑戦してほしい。授業や演習などで教員に文献の評価や批判をたずねてみたり、友人たちと読書会を開いてみたりするのもいいだろう。

学科・コース		基本図書 1	基本図書 2	基本図書 3
社会政策科学科		飯田泰之 『ゼロから学ぶ経済政策』	広井良典 『持続可能な福祉社会』	宮島喬 『多文化であることとは』
コース	企業と社会	藤本隆宏・柴田孝 『ものづくり成長戦略』	藻谷浩介ほか 『里山資本主義』	濱口桂一郎 『若者と労働』
	サステナビリティ	小澤祥司 『エネルギーを選びなおす』	鈴木宣弘 『食の戦争』	岩田正美 『現代の貧困』
	グローバル市民社会	J.W. スコット 『ヴェールの政治学』	S. サッセン 『グローバル資本主義と〈放逐〉の論理』	辻陽明ほか 『新市民伝：NPO を担う人々』
社会学科		好井裕明 『「あたりまえ」を疑う社会学』	船橋晴俊 『社会学をいかに学ぶか』	見田宗介 『現代社会の理論』
コース	人間・社会	筒井淳也 『仕事と家族』	森山至貴 『LGBT を読みとく』	P. フレイレ 『被抑圧者の教育学』
	地域・社会	玉野和志 『東京のローカル・コミュニティ』	H. J. ガンズ 『都市の村人たち』	山下祐介 『限界集落の真実』
	文化・社会	南田勝也・辻泉編著 『文化社会学の視座』	亀山佳明編 『記憶とリアルのゆくえ』	佐藤健二・吉見俊哉編 『文化の社会学』
	国際・社会	宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編 『国際社会学』	C. ヨブケ 『軽いシティズンシップ—市民、外国人、リベラリズムのゆくえ』	A. セン 『人間の安全保障』
メディア社会学科		石牟礼道子 『苦海浄土』	石田英敬 『大人のためのメディア論講義』	佐藤卓己 『現代メディア史 新版』
コース	メディア表現	橋爪大三郎 『戦争の社会学 はじめての軍事・戦争入門』	上野千鶴子 『情報生産者になる』	レフ・マノヴィッチ 『ニューメディアの言語— デジタル時代のアート、デザイン、映画』
	メディア分析	井上俊他編 『ポピュラー文化（社会学ベーシックス7）』	デイビッド・ルイス 『買ったがる脳』	山本昭宏 『核と日本人』
	メディア設計	藤代裕之 『ソーシャルメディア論』	ウィリアム・パワーズ 『つながらない生活 —「ネット世間」との距離のとり方』	ドミニク・チェン 『電腦のレリギオ：ビッグデータ社会で心をつくる』

第3章 学部共通の専門科目

このセクションは3学科共通である。
所属学科に関わりなく目を通すこと。

演習.....	82
外国語教育プログラム.....	85

演習

専門演習は、「演習1」（2年次）、「演習2」（3年次）、「演習3（卒業論文）」（4年次）の3つである。「演習3（卒業論文）」では、各自の研究テーマについて卒業論文の作成を行う。専門演習は、特定の学問分野や研究課題を専門的に深く探求する場であり、教員の専門分野に即して多彩なテーマで開講されている。関心に沿った専門演習を選択することで、興味のあるテーマについて掘り下げて学修することができる。

専門演習は、2～4年次の学修の柱になる科目である。人間関係形成の点でも、演習への参加は充実した学生生活を送るための大切な条件である。演習はすべて選択制であるが、積極的に参加してほしい。

授業科目	単位数	履修年次	備考
演習1	通年4単位	2年次	
演習1（半期）※	半期2単位	2年次	
演習2	通年4単位	3年次	
演習2（半期）※	半期2単位	3年次	
演習3（卒業論文）	通年8単位	4年次	
演習3（卒業論文：半期）※	半期4単位	4年次	

専門演習：履修上の注意

- ◆同一教員が担当する演習1・2・3を履修することも、3年または4年進級時に、異なる教員が担当する専門演習に変更することも可能である。受け入れ人数に限度があるため、演習2、3からの変更を希望する学生は『講義概要（シラバス）』をよく読み、履修を希望する演習を担当する教員の指示に従って履修登録を行うこと。
- ◆通年で在籍予定の学生は、半期の演習を履修できない。「演習1（半期）」「演習2（半期）」「演習3（卒業論文：半期）」は、以下※に述べる事項に該当する学生のみが履修できる。

※ 演習1（半期）、演習2（半期）について

社会学部では、2年次もしくは3年次秋学期から学部が指定する大学の留学制度を利用して留学する学生のために、「演習1（半期）」「演習2（半期）」を設置している。「演習1（半期）」「演習2（半期）」は、留学制度への参加が決定し、かつ演習担当教員の許可を得た学生のみ履修することができる。

本科目の履修手続き等については、社会学部事務課で確認すること。

※ 演習3（卒業論文：半期）について

演習3（卒業論文：半期）は、以下のいずれかに該当し、かつ演習担当教員の履修許可を得た学生のみが履修できる。

- ・春学期末卒業（9月卒業）を予定する者
- ・4年次春学期休学や派遣留学のため、春学期の「演習3（卒業論文）」に参加できない者

「演習3（卒業論文：半期）」の受講手続き、および履修は下記のとおりとする。「演習3（卒業論文：半期）」は卒業論文を含め4単位であることに注意すること。

(1) 対象者

4年次生のうち、下記の学期について演習担当教員の許可を得た学生のみ「演習3（卒業論文：半期）」を履修できるものとする（学生が履修を希望しても演習担当教員が「演習3（卒業論文：半期）」の履修を認めない限り、履修することはできない）。

- a) 春学期：在学年数 3.5 年以上の9月卒業申請者で、4年次春学期の履修登録内容が卒業見込みとなる者
- b) 秋学期：在学年数 3.5 年以上の4年次春学期休学者または派遣留学生で、4年次秋学期の履修登録内容が卒業見込みとなる者

① 当該年度、通年在学する。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		4年次(2回目)		3月に卒業（手続き不要）。 「演習3（卒業論文：半期）」 は履修不可。
						3年次(2回目)		4 年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

② 当該年度、春学期休学する。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		4年次(2回目)		春学期休学の手続きが必要。 履修登録は秋学期。 3月に卒業。 手続きにより「演習3（卒業論文：半期）」（秋学期）履修可。
						3年次(2回目)		4 年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
								休学		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	

③ 当該年度、秋学期休学する

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		4年次(2回目)		秋学期休学の手続きが必要。 3月に卒業。 「演習3（卒業論文：半期）」 の履修不可。
						3年次(2回目)		4 年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
									休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		

④ 当該年度、9月卒業をする。

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		4年次(2回目)		あらかじめ9月卒業の申請 が必要。 手続きにより「演 習3（卒業論文：半期）」（春 学期）履修可。
						3年次(2回目)		4 年次		
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		

(2) 受講手続き

所定の「演習3（卒業論文：半期）履修願」に必要事項を記入し、演習担当教員の署名および捺印を得たうえで、下記の提出期間内に社会学部事務課へ提出する。提出期限を過ぎた「演習3（卒業論文：半期）」の履修登録は認めない。

a) 春学期：春学期授業開始日 ～ 4月30日

b) 秋学期：秋学期授業開始日 ～ 9月30日

(3) 履修登録

「演習3（卒業論文：半期）」をWeb上で登録することはできない。提出された「演習3（卒業論文：半期）履修願」に基づき、社会学部事務課で登録作業を行う。履修登録結果は履修確定日（日程は掲示で発表）にWeb上で各自確認すること。

(4) 履修について

①春学期の「演習3（卒業論文：半期）」は、春学期の「演習3（卒業論文）」に出席し、7月に卒業論文を提出（提出日は掲示で指示）、卒業論文面接を行い、春学期末に成績評価される。

②秋学期の「演習3（卒業論文：半期）」は、通年の「演習3（卒業論文）」の学生と同時期（1月）に卒業論文を提出（提出日は掲示で指示）、卒業論文面接を行い、学年末に成績評価される。

③「演習3（卒業論文：半期）」の単位は、4単位とする。

④年度途中で「通年の演習3」から「半期の演習3」、またはその逆への登録変更は認めない。

外国語教育プログラム

必修外国語科目で身につけた基礎的な語学力を土台として、外国語のより高度な知識と運用能力を養うことを目的とするプログラム。「Advanced English Program」「諸外国語中級プログラム」「諸外国語選択科目」の3つの科目群から構成されている。それぞれ多様な科目が設けられており、各自の関心やレベルに応じて履修することができる。グローバル化の進む社会で求められる語学力の向上や、他の専門科目と連動した外国語の学習、各種の留学プログラムと関連づけた履修など、さまざまな目的で活用してほしい。

なお、社会科学の国際・社会コースを選択した場合は、「Advanced English Program」または「諸外国語中級プログラム」のいずれかから12単位以上を修得する必要がある（※「諸外国語選択科目」を除く）。

Advanced English Program

Advanced English Program (AEP) は、より高度な英語の理解力・運用能力を養うことを目的とし、研究活動に必要とされるアカデミックな英語の学習機会も提供する。AEP 科目は選択科目であり、テーマ・スキル別の科目編成と適正人数クラスが特徴である。中・上級向けの読み書き、翻訳、講読、プレゼンテーションやディベート、TOEFL・TOEIC の試験対策、演劇や比較文化など、テーマや目指すスキルの異なるバラエティ豊富な科目を組み合わせながら学ぶことで、英語力を効率的・多面的に向上させることができる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
English Reading & Writing A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
English Reading & Writing B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
English Oral Communication I・II	半期各2単位	2～4年次	
English Drama I・II	半期各2単位	2～4年次	
Intensive TOEFL (R)	半期2単位	2～4年次	
Intensive TOEIC (R)	半期2単位	2～4年次	
Topics in Comparative Culture	半期2単位	2～4年次	
英語翻訳 A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
英語翻訳 B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 A I・A II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 B I・B II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 C I・C II	半期各2単位	2～4年次	
英語講読 D I・D II	半期各2単位	2～4年次	
特殊講義	半期2単位		

※ スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104 ～ 106 ページを参照すること）。

Advanced English Program : 履修上の注意

- ◆ Advanced English Program の履修には “Basic English 1 - I ・ II” 計 2 単位の修得が必要である（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。ただし、1 年次対象の Basic English 1 単位認定試験に合格した者は 1 年次より履修することができる。
- ◆ Advanced English Program 科目はいずれも、受講に担当教員の許可を必要とする受講許可科目である。受講希望者は年度当初に示される手順にしたがって手続きを行うこと。手続きの方法はガイダンス日程表もしくは掲示で発表する。なお、科目ごとに受講許可の方法が異なる場合があるので注意すること。
- ◆ 科目名に A ～ D のアルファベット記号が付された科目は、そのいくつか、またはすべてを選択し、履修することができる。アルファベットは履修前提を示すものではないので、履修の順序は自由である。履修科目選択にあたってはシラバス等を参照のうえ各自で検討すること。

諸外国語中級プログラム

諸外国語中級プログラムは、ドイツ語、フランス語、中国語それぞれの運用能力を涵養し、言語の背景にある社会や文化、歴史等をより深く理解するために設けられている科目群である。コミュニケーション能力のさらなる向上を目指し、「初級」で修得した基礎力を前提に、中級レベルの講読、文法、会話等の学習を通じて応用力を身につける。また、「上級」各科目の学習に必要な力の養成をはかる。

授業科目	単位数	履修年次	備考
ドイツ語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
フランス語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
中国語中級 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ※	半期各 2 単位	2 ～ 4 年次	
特殊講義	半期 2 単位		

※ スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104 ～ 106 ページを参照すること）。

諸外国語中級プログラム：履修上の注意

- ◆ 諸外国語中級プログラムの履修には、「諸外国語初級 A・B」計 4 単位の修得が必要である（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。ただし、「諸外国語初級 A ・ B 単位認定試験」に合格した者は 1 年次より履修することができる。
- ◆ 諸外国語中級プログラム科目には、上記以外にも履修前提が設定されているので、注意すること（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目の修得が必要な科目の一覧」を参照）。
- ◆ 「中級 1」「中級 2」「中級 3」のいずれかを修得できなかった場合、秋学期科目の登録修正期間に「中級 1 ・ 2 ・ 3」の中から、不合格科目と同名の科目を履修することができる。詳細は秋学期開始時に掲示を確認すること。なお、「中級 1 ・ 2 ・ 3」を活用して、「中級 1」「中級 2」「中級 3」いずれかの履修を秋学期に始めることもできる。
- ◆ 中級 1 ～ 6 をまとめて 1 年間で履修することが学習効果からみて望ましいが、学年をわけて個別に履修することもできる。

諸外国語選択科目

諸外国語中級プログラムに加え、語学力をさらに伸ばしたい学生のために諸外国語選択科目が設置されている。Ⅰ群言語には上級 1～6（※ 中国語のみ上級 1～7）、Ⅱ群言語には中級 1～4 の各科目が設けられている。

※ スタディ・アブロードプログラム（SA プログラム）に参加することによって認定される単位がある（詳細は 104～106 ページを参照すること。）

① Ⅰ群言語＜ドイツ語・フランス語・中国語＞

上級 A 1～6（3 年次配当）と上級 B 1～6（4 年次配当）は、同じ数字を付された A 科目と B 科目が合併で開講されている。「上級 A」を履修した学生が次年度以降に「上級 B」を履修することも、「上級 A」または「上級 B」のいずれか一方のみを履修することもできる。

長期休暇（夏・春休み）を利用し、社会学部が認定した語学研修機関（ドイツ、フランス）への短期留学プログラムに参加して所定の要件を充たすと、「ドイツ語海外研修」または「フランス語海外研修」の単位が認定される（詳細は「第Ⅴ部 海外で勉強するために」の「単位認定海外短期留学制度」の説明を参照）。

授業科目	単位数	履修年次	備考
ドイツ語上級 A 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
ドイツ語上級 B 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	4 年次	
ドイツ語海外研修	2 単位	2～4 年次	
フランス語上級 A 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
フランス語上級 B 1・2・3・4・5・6	半期各 2 単位	4 年次	
フランス語海外研修	2 単位	2～4 年次	
中国語上級 A 1・2・3・4・5・6・7	半期各 2 単位	3 年次	3・4 年次 合併開講
中国語上級 B 1・2・3・4・5・6・7	半期各 2 単位	4 年次	

※ 「諸外国語初級 A・B 単位認定試験」に合格し、かつ所定の条件を充たした学生は、1 年次から履修可（条件の詳細について掲示板にて発表する）。

諸外国語選択科目（Ⅰ群言語）：履修上の注意

上級 1～6（中国語は上級 1～7）は、その言語の中級科目をすべて修得していなくても履修できる。付された数字は履修前提を示すものではないので、履修の順序は自由である。

②Ⅱ群言語＜スペイン語・ロシア語・朝鮮語＞

各言語の中級科目は、その内容が講読、文法、表現・コミュニケーション、作文などに区分されている。『講義概要（シラバス）』を読んで、履修の参考にすること。

授業科目	単位数	履修年次	備考
スペイン語中級１・２・３・４	半期各２単位	２～４年次	
ロシア語中級１・２・３・４	半期各２単位	２～４年次	
朝鮮語中級１・２・３・４	半期各２単位	２～４年次	

諸外国語選択科目（Ⅱ群言語）：履修上の注意

- ◆ 諸外国語選択科目（Ⅱ群言語）の履修には、当該言語の「諸外国語初級 A・B」計４単位の修得が必要である（「第Ⅱ部 履修登録について」の「履修前提科目について」を参照）。
- ◆ 付された数字は履修前提を示すものではないので履修の順序は自由であるが、各Ⅱ群言語中級１（または２）履修後に当該Ⅱ群言語中級３（または４）を履修することが望ましい。

第4章 自由選択科目

このセクションは3学科共通である。
所属学科に関わりなく目を通すこと。

自由選択科目とは.....	90
公開科目.....	90
成績優秀者の他学部履修制度.....	90
グローバル教育センター設置科目.....	90

自由選択科目とは

社会学部を卒業し、学士（社会学）の学位を得るための卒業所要単位数は 124 単位である。このうち、総合科目から 30 単位、所属学科が指定する学科専門科目から 74 単位（社会学科「国際・社会」コース選択者は学科専門科目 62 単位＋外国語教育プログラム科目 12 単位で 74 単位）を修得しなければならない。さらに、20 単位以上を「自由選択科目」として修得する必要がある。自由選択科目の枠をうまく使えば、関心を持つ領域の科目を集中的に履修することができるので、積極的に活用してほしい。「自由選択科目」と見なされる科目は以下の通りである。

- (1) 所属学科の卒業要件で指定された科目群（総合科目、学科専門科目、外国語教育プログラム科目）について、最低必要単位数をこえて修得した超過分
- (2) 所属学科カリキュラムにない、他学科カリキュラム科目（入門科目・学科共通基礎科目・学科共通展開科目・コース専門科目）
- (3) 「公開科目」や「グローバル教育センター設置科目」、「教職教科に関する科目（※）」
- (4) 社会学部開講科目以外の SSI 専門科目（SSI 参加学生のみ）

※「教職教科に関する科目」は、教職課程の「教科に関する科目」のうち、社会学部が開講する総合科目、学科専門科目、外国語教育プログラム科目に含まれない科目を指す。

公開科目

各学部、リベラルアーツセンター、SSI が「公開科目」に指定する科目は、他学部生も履修することができる。公開科目を提供しているのは、下記の学部である（2019 年 4 月現在）。

多摩キャンパス：経済学部・現代福祉学部

市ヶ谷キャンパス：法学部・文学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部、GIS（グローバル教養学部）・デザイン工学部・リベラルアーツセンター

公開科目：履修上の注意

- ◆ 2 年次～4 年次に限り、他学部公開の専門教育科目を履修し、単位を修得することができる。履修登録できる授業科目数は、2 年次～4 年次を通算して 16 単位以下（ただし 2 年次は 1 年間で 4 単位まで、3～4 年次は 1 年間で 8 単位まで）とする。
- ◆ 多摩キャンパスでの開講科目（社会学部開講・他学部開講含め）と市ヶ谷キャンパスの公開科目を同一曜日に履修することはできない。

成績優秀者の他学部履修制度

早期卒業を申請する資格に相当する成績優秀者（GPA が 3.0 以上かつ A－、A、A＋、S が 9 割以上）に対して、専攻分野を超えて広い分野での学習機会を提供し勉学意欲の向上を図ることを目的とした制度である。従来の公開科目の枠を超えた多様な科目が履修できるので、該当者は積極的に活用してほしい。詳細は 4 月初旬に該当者に通知する。

グローバル教育センター設置科目

グローバル教育センターでは以下のプログラムを設置している。詳細については、「第 V 部 海外で勉強するために」を参照すること。

- (1) 交換留学生受入れプログラム（ESOP）
- (2) ERP（English Reinforcement Program/ 英語強化プログラム）
- (3) 短期語学研修・国際ボランティア・国際インターンシップ
- (4) グローバル・オープン科目